

5 試験研究

5.1 担当の活動概要

(1) 温暖化対策担当

人為起源の温室効果ガスによって引き起こされる気候変動（地球温暖化）の影響が世界各地で顕在化している。埼玉県では、地球温暖化とヒートアイランド現象（都市温暖化）の複合的影響により、年平均気温が100年間に2.33℃（熊谷地方気象台における1898～2024年の年平均気温より算出）の速度で上昇している。平成30年7月には災害級の猛暑が発生し、国内の最高気温である41.1℃が熊谷で観測された。また、令和6年の熊谷地方気象台の年平均気温は17.2℃となり、過去最高となった令和5年度と同じ気温を記録した。このような気温上昇に伴い熱中症による救急搬送者数の増加や、農作物の品質低下、強い雨の増加などが報告されており、気候変動の影響が顕在化しつつあり、地方自治体における気候変動対策の重要性が高まっている。そのため、温室効果ガスの排出削減により気温上昇を抑制する緩和策に加えて、気候変動が社会にもたらす損害を軽減する適応策にも取り組む必要がある。そこで、温暖化対策担当では、埼玉県庁温暖化対策課と緊密に連携し、本県及び県内市町村の気候変動対策に資する研究を多角的に実施している。

令和6年度は、独自に開発した「インターネットにつながる暑さ指数計」を県内30地点に設置し、夏季にSAI-PLAT（埼玉県気候変動適応センターのホームページ）を通じ、リアルタイムの暑さ指数情報の発信を行い、熱中症リスクからの回避を促した。取組はメディアでも取り上げられ、多くの県民に活用された。また、競争的研究費による研究課題として、環境再生保全機構環境研究総合推進費「気候変動下で激甚化する都市型水害の減災に向けた都市型豪雨のモデル精緻化と不確実性の低い予測技術の開発」や、日本学術振興会 科学研究費助成事業「夏季の北極低気圧の理解と短期～季節内スケールの北極大気予測精度向上に関する研究」など複数の研究プロジェクトに取り組んだ。行政令達事業としては、県及び市町村の温室効果ガス排出量の算定、大気中温室効果ガス濃度の観測、県内各地の学校百葉箱を活用した温度実態調査を実施し、気候変動に関する基礎情報を収集するとともに情報提供を行った。

また、2018年12月に施行された気候変動適応法を契機として、本県は環境科学国際センターに地域気候変動適応センターを設置し、主に本担当がその活動を担っている。地域気候変動適応センターの役割は、気候変動の影響と適応策に関する情報を県民に提供することであり、令和6年度も「埼玉県内クーリングシェルターマップ」の掲載など、SAI-PLATのコンテンツの充実を一層図るとともに、自主企画としてサイエンスカフェを4回開催し、また、出前講座等を21回実施した。さらに、県内17の市町が設置している市町村の地域気候変動適応センターとも情報共有を行いながら、イベントの開催など共同事業も行っている。

(2) 大気環境担当

南関東の北側に位置する埼玉県は、固定及び移動発生源から排出される大気汚染物質の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的特性から光化学大気汚染も著しいことが知られている。これまでの諸施策により、環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質については、平成19年度以降はほぼ全局で達成し、これが継続している。一方で、光化学オキシダントの環境基準の達成率は、依然として、全局非達成の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数も全国で最も多い自治体の一つであるため、埼玉県における重要な課題となっている。また、微小粒子状物質（PM2.5）の環境基準達成率は、平成23年度から緩やかに改善し、平成30年度以降は全局達成を継続している。年平均値については、昨年度の $9.7 \mu\text{g}/\text{m}^3$ から $9.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ とほぼ横ばいに推移しているが、この値は、令和4年3月に策定された埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉へ～では、大気環境保全施策の指標として設定された年平均値 $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ をわずかに下回っている。大気環境担当では、さらなる改善に向け、PM2.5を対象とした行政令達事業を継続するとともに、競争的研究費なども活用し、PM2.5の化学組成や環境動態解明を行い、また、発生源について地域汚染だけでなく越境汚染も含めた検討を行ってきた。

光化学大気汚染は、PM2.5の二次生成にも大きく寄与するため、揮発性有機化合物（VOC）の個別成分の詳細な分析と環境動態解析を行っているが、新たに導入した試料前処理装置を活用して、時間分解能を高めた実態把握にも着手した。また、ドローンと小型センサーを用いた上空の光化学オキシダントやVOC等の調査にも取り組んでいる。

このほか、長期的暴露による健康影響という観点において、様々な大気中の有害化学物質も注目されており、特に平成29年に発効した「水銀に関する水俣条約」や令和3年度から施行された大気汚染防止法の改正に伴う「解体等における石綿の排出作業の規制強化」などを念頭において行政を支援する取り組みも進めている。さらには、令和5年度の「有害大気汚染物質測定方法マニュアル」の改訂により新たに実施が求められるクロムの形態別測定に

ついて、モニタリングの開始準備を進めた。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、様々な大気汚染物質について現況把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。これらを踏まえ、自主研究課題として「道路周辺の大气中アンモニア濃度への自動車排出ガスの影響」、「気候にも影響する大気汚染物質の地域排出実態の解明」、「バイオエアロゾル観測研究基盤の構築：大気中微生物DNA濃度の計測」を実施した。また適宜、国立環境研究所や地方環境研究所、早稲田大学、東洋大学などと連携し、広域大気汚染への取り組みとしてPM2.5の化学成分の動態解析を続けている。

行政令達課題としては、有害大気汚染物質や各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場における案件解決の支援を行っているほか、民間企業との連携により、上空の大気汚染物質や粒子状物質の新たな計測手法の開発にも取り組んでいる。また、中国、韓国の大学とも研究交流を続けている。

（３）自然環境担当

人類は、自然から多くの恵みを受け取り、生存している。大気中の酸素はもちろん、豊かな海や土壌、人間の食料もそのほとんどが自然からの恵みによるものである。近年、環境汚染や温暖化、開発、外来生物の侵入など様々な要因により自然環境が劣化し、自然からの恵みを支える生物多様性が失われつつある。このような状況下で、人類が生命を維持し存続するためには、生物多様性を保全するとともに、自然との共生を図ることが必要不可欠である。特に首都圏にある埼玉県では都市化が進んでおり、それゆえに自然との共生は特に重要な課題である。

自然環境担当では、「生物多様性に富んだ自然共生社会の形成」を目指し、主に3つの側面（「希少野生生物の保全に関する調査・研究」、「気候変動などによる生育環境ストレスが植物へ及ぼす影響に関する調査・研究」及び「自然環境情報に関する基盤整備と保全・管理への活用」）から自主研究や競争的研究費による研究に取り組んでいる。また、環境部みどり自然課と連携し、行政令達事業も推進している。令和4年度より、当センター内に「埼玉県生物多様性センター」が開設され、生物多様性保全担当が新設された。当担当職員は生物多様性保全担当も兼務し、業務に従事している。

令和6年度は、「湛水開始時期を指標とした水田地帯における生物の生息適地推定」と題した自主研究課題に取り組んだ。当該研究課題では、衛星画像を活用して埼玉県北部・東部地域の水田の湛水開始時期を推定し、カエル類の分布情報と統合することで、生息適地モデルを構築した。

競争的研究費による研究では、日本学術振興会科学研究費助成事業の研究代表者として、「人口減少および気候変動に対する野生動物の行動・生態・生理的応答指標の確立」及び「田植え時期の違いは水田食物網を改変するか？ミクロとマクロを結ぶ包括的生態系解析」と題した研究に取り組んだ。また、他機関との連携では、国立環境研究所とのⅡ型実施共同研究「環境ストレスによる植物影響評価およびモニタリングに関する研究」に参画した。

行政令達事業では、みどり自然課が所管する事業として、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種（ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、オニバス、ソボツチスガリ、アカハライモリ等）の保全対策を実施する「希少野生生物保護事業」、主に奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林においてシカの食害調査を行う「鳥獣保護管理対策事業」、県内における主に特定外来生物の生息・生育状況等を把握する「生物多様性保全総合対策事業」に取り組んだ。「生物多様性保全総合対策事業」では、県民参加による「クビアカツヤカミキリ発見大調査」を実施し、県内での被害状況を把握並びに公表を行った。また、クビアカツヤカミキリの被害木に対する樹幹注入剤の効果検証などを、地元の市町や団体と協働で実施した。

自然環境担当では、調査・研究事業や行政令達事業のみならず、様々な依頼講義、外来生物や生物多様性などに関する出前講座、SNSやマスコミによる情報発信などにも対応・実施した。

（４）資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当の業務は、産業廃棄物及び一般廃棄物に関する循環型社会形成に向けた埼玉県や国の施策の支援、並びに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究である。

行政令達事業のうち、産業廃棄物指導課が所管する事業では各環境管理事務所とも連携を図りながら、「産業廃棄物排出事業者指導事業」、「廃棄物の山撤去・環境保全対策事業」、「環境産業へのステージアップ事業」を実施し、産業廃棄物最終処分場の周辺環境の監視、廃棄物の不適正処理現場周辺の生活環境影響に係る調査、さらに廃棄物処理業者が抱える課題の解決に向けた助言等を実施した。資源循環推進課が所管する事業では環境整備センターとも連携し、「資源リサイクル拠点環境調査研究事業」、「廃棄物処理施設検査監視指導事業」、「サーキュラーエコノミー推進事業」を実施し、県営最終処分場の適正な管理、自治体の廃棄物処理施設管理やプラスチック一括回収に係る技術支援、民間事業者のサーキュラーエコノミー推進に係る助言等を実施した。その他行政支援とし

て、「災害廃棄物処理図上訓練」、「廃プラスチック資源組成調査」などの適切な廃棄物処理を達成するための事業に加え、最終処分場跡地の有効活用として循環型農場整備に係る科学的支援を行った。さらに、環境省の廃棄物処理基準等専門委員会、県内自治体の廃棄物減量審議会委員や廃棄物処理施設建設検討委員等として活動し、県内の廃棄物処理に関わる循環型社会の構築に努めた。

自主研究事業としては、サーキュラーエコノミーの推進に対する啓発手法に着目した「ラベル台紙の循環利用促進に向けた実態把握と事業者意識調査」、最終処分場の適切な廃止の実現を県内外に情報発信するための「一般廃棄物最終処分場の廃止に向けたガス調査方法の課題抽出及び情報発信」を実施した。また、プラスチック資源循環施策推進のため、「プラスチック資源循環施策における環境負荷量の定量と将来予測」、埋立地浸出水の処理改善に関して「埋立地浸出水中窒素除去への吸着材の適用可能性の検討」を実施した。また、国立環境研究所等とのⅡ型実施共同研究「廃棄物最終処分場の廃止判断と適正な跡地利用に資する多面的評価手法の適用に関する検討」を実施した。これらの研究を通して担当の調査・解析能力の向上を図るとともに、国内研究機関等とも連携して研究を進めている。さらに、研究の一環及び研究成果のフィードバックの場として、資源循環推進課及び環境整備センターとともに県内最終処分場設置団体連携会議を開催した。

（５）化学物質・環境放射能担当

化学物質・環境放射能担当では、環境中の有害化学物質や、東京電力福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質に関する調査・研究に取り組んでいる。

埼玉県環境基本計画の主な取組には、「工場・事業場に対する規制遵守指導」や「ダイオキシン類対策の推進」など化学物質に関するものや、放射性物質の状況把握が挙げられている。行政令達事業では、環境監視業務として綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る古綾瀬川底質中のダイオキシン類等の調査、発生源周辺の大気中のダイオキシン類の調査、工業団地周辺における大気中揮発性有機化学物質等の調査を行った。法規制業務としては、ダイオキシン類発生源調査（排水、排ガス、ばいじん等）を行った。さらに、大気環境課と水環境課が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査や立ち入り調査などによる品質管理を行った。放射性物質の状況把握としては、大気浮遊じん、河川水、底質、土壌、降下物、浄水場の源水、蛇口水、製茶、ニジマスの放射性核種分析を行った。その他、出前講座を5件、サイエンスショーを2回実施し、化学物質の適正利用を県民に呼び掛けた。

国内で流通しているものだけでも数万種に及ぶといわれる多種多様な化学物質は、私たちの生活を豊かにし、健康で快適な生活をする上で欠かせないものとなっている。しかし一方で、使い方を誤ると人や環境に悪影響を与えてしまうものもある。そのため、事故や災害等によって有害化学物質が環境中に漏洩したときの備えが必要であり、埼玉県環境基本計画では主な取組のひとつに「化学物質の適正管理と災害対策の促進」を挙げ、当センターの研究所中期取組方針でも研究の柱のひとつに「環境面からの災害・事故への備え」を定めている。発生後に対策を講じるためには、化学物質を迅速に特定し、濃度を把握することが求められる。そこで、自主研究事業では、様々な化学物質を一斉かつ迅速に分析するために、「漏洩事故を想定した有害化学物質のスクリーニング分析法の開発」を実施している。

様々な問題を解決するために、化学物質や放射性物質を環境マーカーとして使用する試みも進めている。「人工甘味料濃度および蛍光強度を利用した下水道不明水の浸入箇所の推定手法の検討」では、人工甘味料や蛍光物質の濃度から、下水管への不明水の浸入箇所を推定する方法について検討している。「放射性物質を指標とした燃焼由来ダイオキシン類の汚染源解明に関する研究」では、天然の放射性核種を用いて、燃焼由来ダイオキシン類が、大気からのものか、焼却灰の混入によるものかを判定する方法を試みている。

競争的研究費による研究（代表）は、国立環境研究所、富山県立大学、東京都環境科学研究所と共同して「底質及び底生食物網に着目したシロキサン類の多媒体残留蓄積性評価」を実施した。その他にも外部機関とは、国立環境研究所等との共同研究だけでなく、環境省等の委員会や関連学会の活動も行った。

（６）水環境担当

埼玉県は、母なる川「荒川」を始めとする諸河川が県の面積の約3.9%を占めており、その割合から全国でも有数の「川の国」といえる。そこで県では、県民が川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するための様々な事業を展開している。かつて典型的な公害である水質汚濁が問題となっていた県内の河川環境は、現在では大幅に改善されている。有機汚濁の指標であるBOD（生物化学的酸素要求量）から見た環境基準達成率は、昭和43年度の水質調査開始以降、平成28年度には全水域で環境基準を達成し、初めて100%となった（同年度の全国の環境基準達成率は、95.8%）。そして、年により変動はあるものの翌年度以降も概ね90%前後の達成率で

推移し、令和6年度は91%となっている。全県的に河川水質が安定して改善されたことを受け、令和4年度から令和8年度を計画期間とする「埼玉県環境基本計画（第5次）」では、施策の方向として「5 恵み豊かな川との共生と水環境の保全」を掲げ、「SAITAMAリバーサポーターズ」等を通じて、県民や企業等が行う豊かな川を守りはぐくむ活動の支援や、恵み豊かな川を更に実感できるような様々な取組が実施されている。

水環境担当では、行政の施策支援及び新たな水環境問題への対応を目標に調査研究に取り組んでいる。行政の施策支援では、公共用水域に設定されている環境基準点等（河川15地点）における水質調査を継続して実施している。また、この事業の一環として、搬入される河川水試料等を対象に環境DNA分析を実施し、県内河川の魚類相の調査結果を「埼玉県川のおさかな環境DNAマップ」として県水環境課から公開している。工場・事業場の排水水については、環境管理事務所が立入検査において採水した試料の一部について、分析委託業者とのクロスチェック分析を行うことで、分析結果の信頼性を担保する役割を担っている。また、毎年恒例となった県内の計量証明事業者等を対象にした水質分析精度管理調査は、令和6年度は、37機関（当センターを含む）の参加を得て、BOD（33機関）、カドミウム（32機関）、鉛（32機関）の標準試料を一斉に分析する形式で実施した。結果については報告会を開催し、精度管理に必要な情報共有を図った。さらに、異常水質事故（油の流出、魚類等のへい死、河川水の変色等）における原因物質の特定や分析などを行った。特に水道水源となっている河川等の水質事故においては迅速な対応が求められることから、水道部局等との部局横断的な連携を強化する目的で企業局水質管理センターとの水質事故研修会を2回実施した。また、担当職員の専門分野を活かす形で分担して、県政出前講座や公害防止主任者資格認定講習の講師を行った。なお、令和6年度業務の特記事項としては、令和7年1月下旬に八潮市内で発生した道路陥没事故に伴う下水の直接放流先河川の水質モニタリングが挙げられる。水環境課をはじめとする関係各課・環境管理事務所等との連携の下、pH、BOD、SS（浮遊物質質量）、大腸菌数等の分析を実施し、放流先河川の衛生学的安全性等を監視した。

その他、研究事業では、水環境の汚濁特性に関する研究として、蛍光分析による汚濁起源の推測手法の確立及び県内水環境中から得たアナモックス集積系の特徴分析及び活用方法の検討を実施した。行政施策支援や研究を推進するために、大学、企業、地方環境研究所等と連携するほか、国や民間の競争的研究費への応募を積極的に行っている。研究成果は、国内及び海外での学会発表や学術誌等での公表に務めるとともに、県職員の研修などによりフィードバックしている。

（7）土壌・地下水・地盤担当

埼玉県は、我が国最大の沖積低地である関東平野の中心に位置している。平野は土地開発が比較的容易である一方、河川の密度が高く、さらに地域によっては軟弱な地層が厚く堆積する場合も数多く見受けられ、河川災害や地震に脆弱な側面を持ち合わせている。第5次埼玉県環境基本計画では、SDGsの考え方も活用した環境・経済・社会の統合的向上を目指しているが、地球環境の変化とともに自然災害に対する防災・減災力の強化や強靱性（レジリエンス）の向上が求められている。また、埼玉県には火山灰堆積物、有機物に富む堆積物、海成堆積物など特徴の異なる様々な地質が存在し、その地質中には県民の生活を支える貴重な水資源である地下水が豊富に蓄えられている。一人一人の県民が「健康で心豊かな暮らし」を実現させるためには、自分たちの暮らす土地や環境がどのような特徴をもつのか科学的知識に裏打ちされた情報を自ら入手し、正しく判断できる環境を整備することが必要不可欠である。

土壌・地下水・地盤担当が所掌する業務内容は、①地質地盤情報を含む各種地理環境情報の整備・収取と情報提供、②土壌・地下水汚染対策と地下水常時監視事業の技術的な支援、③地中熱利用システムのための地下環境情報整備、④騒音振動公害に関する行政支援などに分けることができる。①については環境政策課、②については水環境課土壌・地盤環境担当、③についてはエネルギー環境課や産業労働部所管の中央高等技術専門校、④については水環境課総務・騒音・悪臭担当や市町村と連携して、行政課題の解決に役立つ研究や技術情報を提供している。また、①については、県民や各行政機関からの問い合わせに対して個別対応しているほか、Webを通じた一般公開も行っている。

担当としての目標は、第一に、県内各地域の重金属類や有機化学物質による汚染問題の地域特性を解析し、汚染機構や発生源を解明するとともにその対策技術を開発すること。第二に、正確な地下地質構造を踏まえた新しい地下水・地盤環境監視を実現することである。そして、第三に、地中熱エネルギー賦存量、現有技術、最新技術、経済性などを考慮した自然や社会への影響評価等から、本県の地中熱利用エネルギーのポテンシャルを解析して普及に役立つ情報を一般向けに提供することである。また、近い将来に発生すると予測されている大規模な自然災害に迅速かつ的確に対処することを目的に、防災に役立つ様々な環境情報を収集し、既存の地理環境情報システムを活用して提供することを目指している。このため、当担当では、自主研究課題として、「環境水に含有され

るペルフルオロアルキル化合物（PFASs）の高感度一斉分析法の開発」、「硝酸・亜硝酸性窒素による汚染地下水の水質特性と帯水層の解析」、「震災時生活用水確保困難地域の推定と防災井戸拡充による対応に関する研究」そして「太陽熱と地中熱による複合システムの有効性の検証」などを設定し、問題解決に取り組んでいる。また、外部機関との連携活動としては、(国研)産業技術総合研究所、秋田大学、(国研)国立環境研究所、大阪府立環境農林水産総合研究所、東京農工大学、大阪公立大学及び神奈川県温泉地学研究所など公的研究機関と共同研究を実施しているほか、県内の民間企業と共同で研究成果の社会実装化を目指している。一方、競争的研究費による研究では、日本学術振興会科学研究費助成事業による助成を受けた研究課題として、「衛星熱画像を活用した次世代型地中熱源ヒートポンプの適地評価手法の開発」、「埋立およびリサイクルによるプラスチック添加剤の環境汚染実態の解明」、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）による助成を受けた研究課題として、「地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発」などを実施している。

行政と連携した代表的な取り組みとして、地下水継続監視井戸の整理・統合があげられる。今年度は、県南西部地域の地下水窒素汚染を対象として、汚染帯水層の特定や発生原因の解析を実施した。研究成果を基に作成した継続監視井戸の整理・統合案をベースに、水質監視事業（地下水）の合理化を進めることとなった。また、令和6年度から水質監視事業で調査・分析を行っているPFOS及びPFOAについて、指針値を上回った地点で地下水周辺調査を実施し、得られた分析結果をもとに環境部水環境課に対して技術的な助言を行った。また、災害時地下水利用ガイドライン（内閣官房水循環政策本部事務局 国土交通省水管理・国土保全局水資源部）の策定に有識者として係わり、自治体における防災井戸制度の普及促進を目指している。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

(19課題)

	テーマ名・期間	目的	担当者
1	埼玉県内における暑熱分野の適応策の普及啓発手法に関する研究 (令和5～7年度)	独自に開発したIoT暑さ指数計による屋外の暑熱環境のモニタリング体制を構築し、暑さ指数の情報の発信を実施しているが、県民へ十分に周知や普及を行えていない現状がある。そこで、暑熱分野の適応策に必要な情報の整備を実施しつつ、効果的な県民向けの情報発信及び普及啓発手法の検討を行うことを目的としている。	大和広明 嶋田知英 武藤洋介 河野なつ美 山上晃央
2	地域気候変動適応策に資するための極端気象現象の長期再現実験 (令和6～8年度)	県内では2018年の熊谷や2022年の鳩山町で記録的な猛暑と大雨が観測された。このような極端気象現象は気候変動の進行に伴う激甚化・頻発化が懸念されているものの、地域気候変動適応策の立案に活用可能な将来予測や災害リスク情報は提供されていない。そのため、関東地方における極端気象現象の発生頻度や災害リスクの長期的な傾向を整備し、情報を提供する。	河野なつ美 嶋田知英 大和広明 山上晃央
3	道路周辺の大気中アンモニア濃度への自動車排出ガスの影響 (令和5～6年度)	アンモニア(NH ₃)は、大気中の主要な塩基性物質であり、環境の酸性化や生態影響を検討する上でも重要な物質である。NH ₃ の主な発生源として、家畜排泄物や農地への施肥などがよく知られているが、加えて自動車からも排出されている。そこで埼玉県内の幹線道路周辺等でNH ₃ 濃度を測定し現状を把握する。	松本利恵 長谷川就一 市川有二郎 村田浩太郎 佐坂公規 武藤洋介 米持真一
4	気候にも影響する大気汚染物質の地域排出実態の解明 (令和5～7年度)	メタン(CH ₄)や黒色炭素粒子(BC)は短寿命気候影響因子であり、気候に影響する物質として大気汚染だけでなく気候変動(温暖化)の観点からも、大気中での挙動や排出実態を把握する必要がある。そこで、埼玉県を主とした地域スケールでのCH ₄ やBCの時間的・空間的な排出実態の推定やその手法の検討などを行う。	長谷川就一 米持真一 佐坂公規 松本利恵 市川有二郎 村田浩太郎
5	バイオエアロゾル観測研究基盤の構築：大気中微生物DNA濃度の計測 (令和6～8年度)	バイオエアロゾルは花粉や細菌、ウイルスなどの生物起源粒子で、大気汚染、アレルゲン、病原体、気候変動に関与する重要な研究対象である。本研究では、埼玉県におけるバイオエアロゾル研究の基盤構築を目的とし、大気中微生物DNAの取得手法の確立と実大気での濃度計測を行う。さらに、大気環境モニタリング調査への応用も検討する。	村田浩太郎 市川有二郎 長谷川就一 松本利恵 佐坂公規 米持真一 渡邊圭司
6	湛水開始時期を指標とした水田地帯における生物の生息適地推定 (令和5～7年度)	本県の水田では田植え時期が地域や圃場間で大きく異なり、その差は最大で2か月にも及び、生物の分布にも影響する。本研究では、合成開口レーダ(SAR)で撮影された衛星画像から水田圃場ごとに田植え前の湛水開始時期を推定する。野外調査で得られるサギ類とカエル類の分布データと組み合わせることでモデルを構築し、水田地帯における生息適地を可視化する。	安野翔 大和広明 角田裕志 米倉哲志 王効挙
7	一般廃棄物最終処分場の廃止に向けたガス調査方法の課題抽出及び情報発信 (令和6～8年度)	県内一般廃棄物最終処分場においてガス抜き管等からのガス放出量を実調査し、廃止基準への適合可能性を確認するとともに、実務上の課題を抽出・整理する。並行して「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」の改訂に資するとともに、県運用基準の見直し等の事務的な調整も図り、最終処分場の適切な廃止の実現を県内外に情報発信する。	長森正尚 長谷隆仁 鈴木和将 磯部友護

	テーマ名・期間	目 的	担 当 者
8	ラベル台紙の循環利用促進に向けた実態把握と事業者意識調査 (令和5～6年度)	焼却ごみ量の削減は直接排出量を削減に寄与するために、事業系ごみに含まれるラベル台紙に着目した。本研究では、ラベル台紙のリサイクルに取り組む民間団体の支援を行うとともに、ラベル台紙の処理処分に関わる現況の把握、及びリサイクルに対するユーザーの意識調査を行う。	川嵩幹生 磯部友護 長森正尚 茂木守
9	埋立地浸出水中窒素除去への吸着材の適用可能性の検討 (令和6～7年度)	廃棄物処分場浸出水は、汚濁成分によって減衰に差があり、特に窒素は、埋立終了後の維持管理が長期化し、設備過剰等により維持管理上の負担の一因となっている。そこで、本研究では、吸着材処理について、埋立終了後といった一時的な期間、生物処理の補助的な技術としての適用可能性について検討するため、吸着性能試験等、基礎的な情報把握を行う。	長谷隆仁
10	プラスチック資源循環施策における環境負荷量の定量と将来予測 (令和6～8年度)	埼玉県におけるプラスチック資源循環施策を対象として、マテリアルフロー分析(MFA)とライフサイクルアセスメント(LCA)を統合することにより予測モデルを構築する。そのモデルを用い、プラ新法により予想される一括回収等の分別収集の変更による温室効果ガス等の環境負荷削減量を定量的に評価する。	鈴木和将 磯部友護 長谷隆仁 川嵩幹生 長森正尚
11	漏洩事故を想定した有害化学物質のスクリーニング分析法の開発 (令和3～6年度)	化学物質の漏洩事故を想定し、県内でリスクが高いと考えられる化管法の対象物質について、物性に応じて系統化した迅速スクリーニング分析法を検討する。また、物質の同定率を向上させるデータ解析手法についても併せて検討する。	竹峰秀祐 大塚宜寿 蓑毛康太郎 堀井勇一 渡辺洋一 落合祐介 高沢麻里 北島卓磨
12	人工甘味料濃度および蛍光強度を利用した下水道不明水の浸入箇所の手推定手法の検討 (令和5～6年度)	下水の不明水の増加は、水処理への影響、汚水の溢水、道路の陥没等、様々な環境問題を引き起こすため、その対策は重要な課題である。本研究では、簡便に測定できる人工甘味料濃度や蛍光強度を下水のマーカーとして利用し、下水管きよの不明水の浸入箇所を推定する方法について検討する。	竹峰秀祐 池田和弘 大塚宜寿 蓑毛康太郎 堀井勇一 落合祐介 渡辺洋一
13	放射性物質を指標とした燃焼由来ダイオキシン類の汚染源解明に関する研究 (令和5～6年度)	水質中の燃焼由来ダイオキシン類が、排出ガスに由来し大気を経由してきたものなのか、あるいはそれ以外の焼却灰の混入によるものかを特定する手法は見出せていない。本研究では、大気や大気降下物から検出されているBe-7やPb-210といった自然核種に着目し、水試料中の燃焼由来ダイオキシン類の汚染源特定の指標としての可能性を検討する。	落合祐介 大塚宜寿 蓑毛康太郎 堀井勇一 竹峰秀祐 渡辺洋一 今泉実 谷脇夕希
14	埼玉県内水環境における水生動植物相の高精度網羅的調査手法の開発 (令和4～6年度)	環境DNA分析技術を用いて、主に県内水環境に生息する肉眼観察可能なサイズの動植物全般を対象とした網羅的調査手法を開発することを目的とする。既往手法の採捕調査と環境DNA分析は長所・短所(特徴)がほぼ正反対であるため、両手法を併用することで、生物調査の効率化・高精度化を図る。	木持謙 渡邊圭司 田中仁志

	テーマ名・期間	目 的	担 当 者
15	アナモックス反応を応用した実践的窒素除去方法の検討と課題整理 (令和6～8年度)	アナモックス反応は、エネルギー消費が少ない新しい窒素除去法として注目されている。しかし、国内の下水処理場での実践例は少ない。本研究では下水処理場のメインストリームでのアナモックス処理の実用化を目指し、培養細菌を用いたラボスケール実験を実施する。低窒素濃度下での処理特性を評価するとともに、金属元素の影響や亜硝酸酸化細菌による阻害要因を分析する。	見島伊織
16	硝酸-亜硝酸性窒素による汚染地下水の水質特性と帯水層の解析 (令和4～6年度)	埼玉県内には、硝酸-亜硝酸性窒素による地下水汚染が多数存在する。これらの汚染井戸（継続監視井戸）のなかには、お互いに近接して存在する井戸が存在するため、水質監視事業の効率化と合理化という観点から、水質特性などに基づいた継続監視井戸の絞り込みが強く求められている。本研究では、硝酸性及び亜硝酸性窒素の継続監視井戸を対象にイオンクロマトグラフィーを実施し、無機類成分の存在比率や当該地域の地質柱状図を基に帯水層解析を実施する。	石山高 柿本貴志 濱元栄起 高沢麻里
17	太陽熱と地中熱による複合システムの有効性の検証 (令和6～8年度)	脱炭素社会への取り組みにおいて、化石エネルギーによる熱エネルギーを再エネ熱に転換することが重要である。とくに再エネ熱として太陽熱や地中熱が有望である。本研究ではこの両者を連結した複合システムを検討し、各エネルギー源を相補的に利用した高効率かつ低コストである再エネの熱供給システムの可能性を検証する。	濱元栄起 石山高 柿本貴志 高沢麻里 嶋田知英 大和広明
18	震災時生活用水確保困難地域の推定と防災井戸拡充による対応に関する研究 (令和4～8年度)	阪神淡路大震災以降、井戸水が災害時の生活用水として活用されるようになった。東日本大震災などの地震においても、断水地域では生活用水不足が被災者の生活の質に悪影響を及ぼし続けており、災害発生時の生活用水確保手段の堅牢化・多重化を進めていく必要がある。本研究では特に井戸の活用に注目し、災害発生時における生活用水確保が容易になるような社会システムの構築を目指す。	柿本貴志 高沢麻里 濱元栄起 石山高
19	環境水に含有されるペルフルオロアルキル化合物（PFASs）の高感度一斉分析法の開発 (令和5～6年度)	有機フッ素化合物の一つであるペルフルオロアルキル化合物（PFASs）は、環境汚染物質として世界的に問題視されている。本研究では、微量分析の精緻化に向けた取り組みとしてPFAS試薬保存瓶の開発及び環境水中PFOS及びPFOA分析の全自動化を進める。	高沢麻里 竹峰秀祐 茂木守 石山高

（注） 概要は、7. 1 自主研究概要を参照。

5.2.2 競争的研究費による研究事業

（25課題）

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
1	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 (令和5～6年度) 研究代表:(国研)国立環境研究所 その他連携先:(一財)電力中央研究所、九州大学、(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター	「2050カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの予測と低オゾン・脱炭素コベネフィット戦略の提示」 地表オゾンは環境基準の達成率が未だ低く、大気環境行政の喫緊の課題である。今後日本が目指す2050年カーボンニュートラル環境下における地表オゾンの将来予測を実施し、脱炭素と低オゾンを両立させるようなコベネフィット戦略を提示する。	河野なつ美

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
2	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 (令和6～8年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:筑波大学、東京科学大学	「気候変動下で激甚化する都市型水害の低減に向けた都市型豪雨のモデル精緻化と不確実性の低い予測技術の開発」 都市型豪雨は雨雲の発生から消滅までが短時間で、強い降水が狭い範囲で生じることから、深刻な都市型水災害を引き起こす。一方で、その発生特性からシミュレーションの再現性は依然低く、都市型水害リスクの予測には不確実性が大きい。そのため、大気汚染物質と都市化影響が降水に与える影響を定量化し、さらに日本が目指す脱炭素社会における都市型豪雨の予測を通じて、水災害リスクを低減させるようなシナリオを提案する。	河野なつ美 (代表) 山上晃央
3	(独)環境再生保全機構 環境研究総合推進費 (令和6～10年度) 研究代表:(国研)国立環境研究所 その他連携先:大阪大学、東京大学、いであ(株)、(公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター、東京科学大学、長崎大学、(特非)海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、(国研)理化学研究所、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践」 様々な施策・取組みの効果や気候変動の影響等をエンド・ツー・エンドで予測・評価する統合評価モデルと、予測・評価結果をバーチャル空間上で分かりやすく可視化する「見える化」機能を搭載した沿岸環境・生態系デジタルツインを開発する。開発プロセスにおいて、実海域の施策・取組みのケーススタディや市民参画プラットフォームでの活用実践を並行して行い、行政や市民・民間等からのニーズを幅広く収集して開発に反映することで、多様なステークホルダーの理解醸成と合意形成を支援するデジタルツインプラットフォームを構築する。	見島伊織
4	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和3～6年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:早稲田大学、さいたま市健康科学研究センター、中国・上海大学、韓国・済州大学校、吉野電化工業(株)	「各種発生源から大気中に放出される磁性粒子の特性解明」 磁性粒子は人体に悪影響を及ぼす可能性が指摘されているが、その特性や発生源は十分に解明されていない。本研究では、様々な発生源や生成過程から大気中に放出される磁性粒子を採取し、形状、磁気特性、元素組成等を明らかにする。	米持真一 (代表)
5	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (令和5～7年度) 研究代表:(国研)国立環境研究所 その他連携先:(国研)理化学研究所、名古屋市立大学、公立鳥取環境大学、北九州市立大学、千葉大学、(国研)産業技術総合研究所	「情報科学の援用による多様な化学物質の包括的・即応的環境計測」 本研究では、質量分析を中心に重金属などの無機元素やイオンなどの各種計測を加えた包括分析を行うことで、より広範囲な化学種の検出を目指し、そのカバー範囲や再現性等の検証は複数の協力機関が参加する共通試料分析により実施する。また、人工知能や計算科学的手法を投入することにより、包括的分析データから原因物質に係る有意成分を抽出し、その構造や物性を予測する一連の解析法を開発する。収集した包括データのレトロスペクティブ解析やオンデマンド解析による物質探索を可能にし、最終的には、環境異常事象の要因(化学物質・化学種)を特定・推定するための即応的・実践的かつ先駆的な手順を提案する。	大塚宜寿 竹峰秀祐

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
6	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和4～6年度） 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:気象庁気象研究所	「夏季の北極低気圧の理解と短期～季節内スケールの北極大気予測精度向上に関する研究」 北極域における大気・海洋・海水現象の理解と正確な予測は、科学的・社会的な要請が強い。本研究では、北極域の顕著現象である北極低気圧の発達・維持プロセスの理解を軸として、大気・海洋・海水相互作用、極域と中緯度との相互作用、エネルギー・淡水・物質循環構造の変化などの理解を進め、数日から数か月の北極大気のパredict可能性向上に資する研究を行う。	山上晃央 （代表）
7	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和5～7年度） 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター	「観測タワーとドローンの統合観測による多成分BVOC放出フラックスの面的不確実性評価」 生物起源揮発性有機化合物(BVOC)は、地球規模の炭素循環や気候変動、地域規模の光化学大気汚染に大きな影響を与えている。しかし、BVOCの物質収支は未だ十分に解明されておらず、中でも放出量(放出フラックス)算定の不確実性を低減することが大きな課題となっている。本研究では、森林上におけるタワー観測とドローンを活用した水平移動観測とを組み合わせ、BVOC放出フラックスの空間代表性(不確実性)の解明を目的とする。	市川有二郎 （代表） 米持真一
8	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和4～6年度） 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「降水中の氷晶核の痕跡を探る－降水に寄与する氷晶核および微生物の解明」 気候変動に伴う豪雨の増加が懸念される中で、降水過程の解明が強く望まれる。降水の開始には氷晶核としてはたらく特別なエアロゾル粒子（鉱物や微生物など）が関与するが、その知見は確立されていない。本研究では降水に痕跡として残る氷晶核を対象とした観測研究に着手する。	村田浩太郎 （代表）
9	(独)日本学術振興会 国際共同研究加速基金（海外連携研究） （令和6～8年度） 研究代表:早稲田大学 その他連携先:帝京科学大学、カンボジア・アプサラ機構	「アンコール遺跡保全と持続可能な観光のための大気環境管理戦略」 アンコール遺跡群はカンボジア北西部に位置し、観光客が最も多く訪れる重要な観光資源である。1992年にユネスコ世界文化遺産に登録され、各国が修復・保存に協力している。しかし、観光客増加に伴う排ガスや粉塵、バイオマス燃焼、商業用発電による大気汚染が懸念されている。遺跡群とシェムリアップ周辺の大気汚染実態は不明であり、本研究ではガスやエアロゾル、降雨を含む総合的な調査を行い、観測体制の整備や人材育成を通じ持続可能な社会の実現を目指す。	村田浩太郎
10	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業（基金） （令和3～7年度） 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:山形大学、日本獣医生命科学大学、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構	「人口減少および気候変動に対する野生動物の行動・生態・生理的応答指標の確立」 本研究では、人口減少による人為的圧力の低下や土地の管理放棄と、気候変動による極端気象の増加が、中大型の野生動物の行動・生態・生理に与える影響を統合的に理解し、将来の野生動物の分布変化や個体数の増減を高精度で予測するための指標の確立を目的とする。	角田裕志 （代表）

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
11	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和6~8年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「田植え時期の違いは水田食物網を改変するか?ミクロとマクロを結ぶ包括的生態系解析」 本研究では、田植え時期の違いが、水田における水生生物からサギ類までを結ぶ水田食物網に与える影響を解明することを目的とする。炭素・窒素安定同位体比分析やDNAメタバーコーディングを用いることで、水中食物網構造やサギ類の食性を調査し、田植え時期との関係を明らかにする。また、衛星画像で推定した湛水開始時期を指標としてサギ類の採餌適地を可視化し、水田食物網の空間的な分布とその季節変化を推定する。	安野翔 (代表) 大和広明
12	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (令和4~6年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:(国研)国立環境研究所、富山県立大学、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「底質及び底生食物網に着目したシロキサン類の多媒体残留蓄積性評価」 東京湾及び河川の底質及び底生食物網に着目したシロキサン類の網羅的調査から、食物網内の濃度分布及び栄養段階に依存するシロキサン類の濃縮傾向を明らかにするとともに、生物蓄積動力学モデルにより食物網の蓄積特性を解析する。さらに、地理的分解能を有する多媒体環境動態モデル(G-CIEMS)を用いて東京湾及びその流域内の多媒体に渡るシロキサン類の移動・消失・存在量及び空間分布を推定することで、シロキサン類の環境排出を含む多媒体挙動の全体像を明らかにする。	堀井勇一 (代表) 安野翔
13	(独)日本学術振興会 二国間交流事業 (令和6年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:広島大学、チリ・フェデリコサンタマリア工科大学、チリ・アントファガスタ大学、チリ・マゼラン大学	「大気・陸・海を循環するマイクロ(ナノ)プラスチックの共同研究に向けた日智セミナー」 大気・陸・海を循環するマイクロプラスチック(MPs)の種類と量及び地域分布の特徴を明らかにする研究展開を目的としている。本セミナーには当センターから3名(田中、磯部及び村田)が参加し、田中は「セミナー趣旨とエアロゾル中のマイクロプラスチックの挙動解明の重要性」、磯部は「プラスチック廃棄物の管理と処分制度」、村田は「富士山におけるエアロゾル観測」について発表した。	田中仁志 (代表) 磯部友護 村田浩太郎
14	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和5~7年度) 研究代表:早稲田大学	「バイオフィenton法を組込んだ高性能膜分離活性汚泥法の研究開発」 本研究は、難生分解物質等の酸化機能を強化し、高品質な処理水を少ない資源・エネルギー消費で得ることができる高性能排水処理・水再利用技術の開発を行う。酸化機能の強化はバイオフィenton法に着目し、微生物細胞内で生成の過酸化水素と鉄化合物が反応して生成されるヒドロキシラジカル(この反応をFenton反応という)の酸化力を活用する。また、鉄触媒にマグネタイトを用いることによる、磁力を活用した処理水と汚泥の分離技術についても開発する。	木持謙
15	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和5~7年度) 研究代表:東洋大学	「環境DNA分析を用いた水生生物情報提供による市民の水辺価値評価向上手法の提案」 本研究では、川越市を対象地域とし、環境DNA/RNA分析等を活用して調査地域の河川における代表的な水生生物の質(種類)と量(相対的な分布密度)の推定精度を高める手法を開発する。また、市民への調査結果の提供が、地域の水辺の価値評価に与える影響について、アンケート調査によって評価する。これらにより、水辺の価値を高められる水生生物情報提供手法を提案する。	木持謙

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
16	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和4~7年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:大阪工業大学	「蛍光分析で検出されるトリプトファン様物質ピークの由来はタンパク質かタンニンか」 三次元励起蛍光スペクトル法による水質評価ではトリプトファン様ピークがタンパク質の量の指標としてよく利用される。一方、植物由来の有機物であるタンニンが多く共存する場合、ピーク位置がトリプトファン様ピークと重なるため、指標性に疑義が生じる。本研究は、河川水、湖沼水、下水において、トリプトファン様ピークが真にタンパク質の指標となるか実態を解明する。またトリプトファン様ピークがタンパク質の指標となる条件(水の種類、流域特性、降雨状況など)について整理する。	池田和弘 (代表)
17	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和6~8年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:東洋大学	「低炭素化を志向した多段的アナモックス活用による排水中の窒素除去の高度化」 本研究では、アナモックス処理を水処理系と污泥処理系の排水の処理に多段的に活用することを試みる。両処理において高い窒素除去性能を有するアナモックス細菌を使用することとし、実験的に窒素除去活性と生物叢が維持される条件について明らかにする。また、多反応との競合によるアナモックス反応の失活の抑制についても検証する。最終的に本研究で提案する多段的アナモックス活用技術による排水処理の低炭素化効果を申請者が考案した手法を用いて定量的に評価する。	見島伊織 (代表)
18	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和4~6年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:(国研)理化学研究所	「浮遊細菌を介した未知の窒素動態が淡水圏の窒素循環に与える影響」 河川に生息している浮遊細菌が、有機態窒素の半分近くをアンモニア態窒素に変換していることが明らかとなった。このことから、河川から淡水圏の生態系において、浮遊細菌を介した未知の窒素循環プロセスが存在すると考えられる。本研究では、これら浮遊細菌を介した新たな窒素循環プロセスの全容解明を目的としている。	渡邊圭司 (代表)
19	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(基金) (令和4~6年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:神奈川県温泉地学研究所、(国研)産業技術総合研究所	「衛星熱画像を活用した次世代型地中熱源ヒートポンプの適地評価手法の開発」 脱炭素社会の実現のために地中熱源ヒートポンプの普及が期待されている。本研究では深層型セントラル方式に着目した適地評価についての研究を行う。具体的には衛星熱画像と数値解析(有限要素法)を用いて地中熱解析を実施する。社会実装につなげることを念頭に最終成果をとりまとめる。	濱元栄起 (代表)
20	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業(補助金) (令和5~8年度) 研究代表:東京農工大学	「埋立およびリサイクルによるプラスチック添加剤の環境汚染実態の解明」 プラスチックに含有される添加剤は、適正に回収され処理をされても、埋立地の浸出水から環境中に広がったり、リサイクルによって再度製品に含有されたりと非意図的に再分配されている。本研究では浸出水やリサイクルされたペレットに含有される内分泌かく乱化学物質(ビスフェノールAやその関連物質)に着目し、環境中での実態把握及び環境動態を明らかにすることを目指す。	高沢麻里

	資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担 当 者
21	(国研)科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム COI-NEXT 共創分野本格型 (令和2～11年度) 研究代表：東京大学 その他連携先：東北大学、(国研)農業・食品産業技術総合機構、ほか25機関	「地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点 (ClimCORE)」 今後の社会設計の前提となる基盤データとして、最新の気象予測モデル技術と衛星・レーダー等の最新の観測技術を融合した日本域気象再解析を実施し、過去から現在に至る日本域の大気状態を均質・高品質で高い時空間分解能で再現する4次元気象データを整備する。また、この日本域気象再解析を含む地域気象データや最新の気象情報を、社会・産業の多様な分野において戦略的に利活用可能とする体制の構築を目指す。	河野なつ美
22	(公財)河川財団 河川基金助成事業 (令和6年度) 研究代表：埼玉県環境科学国際センター その他連携先：東北工業大学、東洋大学	「水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及」 市民は、幼少期に河川に親しんだ体験の量と質に応じて水辺を愛で、河川環境の持続的保全行動や行政施策に理解を示す。河川への汚濁負荷の7割は生活排水由来であり、水質改善のためには日常生活において広く市民からの協力を得る必要がある。現在、小学校では総合的な学習の時間が設けられており、河川は探求学習の題材として有望である。生き物調査の野外体験型学習に加え、野外学習が困難な場合も想定し、教室内で手軽に利用できるカードゲームにより河川水質と生き物の関係、河川に優しい行動を楽しく学ぶ体験型学習法の普及を目指す。	田中仁志 (代表) 木持謙
23	(公財)日本釣振興会 2024年度魚族資源の資源動態や生息環境に関連する研究助成 (令和6年度) 研究代表：環境科学国際センター	「河川魚類の資源動態に影響を及ぼす化学・物理学・生物学的環境要因の探索」 県内主要河川でオイカワ、ウグイ、フナ類等の雑魚を含む生息魚類相と資源動態を把握した上で、それらに影響する要因を明らかにすることを目的とする。まず、環境DNA分析による魚類定量網羅的解析により、生息魚類相の現状把握と魚種ごとの大まかな資源量比率を推計する。次に、資源動態に影響する可能性のある諸因子と魚類多様性や各魚種の資源量比率の関係を解析して主要な影響要因を明らかにする。	木持謙 田中仁志 渡邊圭司
24	(公財)日本環境整備教育センター 浄化槽に関する調査研究助成 (令和6年度) 研究代表：埼玉県環境科学国際センター その他連携先：滋賀県立大学	「小型浄化槽の海外展開を志向した処理性能の可視化」 日本の浄化槽は超小型化、栄養塩除去機能など高性能なモデルが多型式に渡って国内で展開されている。これらの浄化槽の海外への水平展開が検討されているが、その高い環境性能を海外で十分にアピールすることが課題となっている。本研究では、米国をターゲットに、その地域の環境性能を可視化する新たなモデルの開発を目指し、米国の現地条件に適した環境負荷評価手法を整理し、特にBOD、窒素、リン除去機能を持つ最新型浄化槽の環境性能評価を行う。	見島伊織 (代表)
25	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構委託事業 (令和6～10年度) 研究代表：(国研)産業技術総合研究所 その他連携先：(地独)北海道立総合研究機構、静岡県環境衛生科学研究所、岐阜大学、金沢大学、秋田大学	「地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発」 再エネ熱大量導入および地域活性化の実現に向けて、地方における再エネ熱の面的利用および大量導入を実現するための導入支援技術の一環として事業化支援技術開発(再エネ熱面的利用の事業モデル構築とガイドライン作成)に取り組む。本研究開発では再エネ熱面的利用の事業化支援技術開発の前段として地中熱利用システムの導入支援技術の開発も実施する。	濱元栄起 石山高 柿本貴志 高沢麻里 嶋田知英 大和広明

(注) 概要は、7. 2 競争的研究費による研究の概要を参照。

5.2.3 行政令達

(38課題)

	事業名	目的	担当	関係課
1	地球温暖化対策実行計画推進事業	県内における温室効果ガスの排出量、二酸化炭素濃度、温度実態等を調査し、温暖化の状況や温暖化対策の効果等について分析を行う。また、気候変動適応策を推進するため、県及び各市町の気候変動適応センターの活動として、県内の気候変動とその影響に関する情報の収集やWEBサイト、サイエンスカフェ、出前講座を通じた発信を行う。	温暖化対策担当	温暖化対策課
2	アグリテック栽培技術発信拠点事業	トマト栽培などの施設園芸では増収を目的に二酸化炭素の施用が行われている。しかし、二酸化炭素施用には化石燃料が使われ温室効果ガス排出量をさらに増やしてしまう。これを回避するため暖房用の排ガスから二酸化炭素を回収し施用する機器の実証を行い、導入が進んだ場合の環境負荷低減効果を定量化する。	温暖化対策担当	農業政策課
3	有害大気汚染物質・ダイオキシン類等モニタリング調査事業（地球環境モニタリング調査）	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。	温暖化対策担当 大気環境担当	大気環境課
4	有害大気汚染物質・ダイオキシン類等モニタリング調査事業（有害大気汚染物質モニタリング調査）	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。	大気環境担当	大気環境課
5	有害大気汚染物質・ダイオキシン類等モニタリング調査事業（炭化水素類組成調査）	光化学スモッグの原因物質の一つである揮発性有機化合物について、県内の大気環境中における実態を把握する。	大気環境担当	大気環境課
6	大気汚染常時監視事業（PM2.5成分分析）	埼玉県内のPM2.5による汚染実態を把握するとともに、その成分も分析することで、PM2.5の濃度低減を図るための基礎的なデータを得る。	大気環境担当	大気環境課
7	NO _x ・PM総量削減調査事業	関東地方大気環境対策推進連絡会微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議に参加し、微小粒子状物質及び光化学オキシダントの調査及びデータの解析を行う。	大気環境担当	大気環境課
8	光化学オキシダント・PM2.5対策事業（PM2.5発生源調査）	ばい煙発生施設から排出されるPM2.5の実態を明らかにすることで、PM2.5の発生源対策に役立てるとともに、排出インベントリーの整備にも寄与する。	大気環境担当	大気環境課
9	光化学オキシダント・PM2.5対策事業（VOC対策サポート事業）	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物（VOC）の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	大気環境課

	事業名	目的	担当	関係課
10	工場・事業場大気規制事業	工場、事業場からの大気汚染を防止するため、固定発生源におけるVOC等を測定する。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	大気環境課
11	大気環境石綿対策事業	県民の石綿による健康被害の防止及び不安の解消を図るため、震災発生時における速やかな大気への石綿飛散状況のモニタリング体制を整備する。	大気環境担当 資源循環・廃棄物担当	大気環境課
12	騒音・振動・悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課
13	化学物質環境実態調査事業	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 化学物質・環境放射能担当 水環境担当	大気環境課 (環境省委託)
14	希少野生生物保護事業 (調査等)	「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ、アカハライモリ、オニバスについて、生息・生育地のモニタリング調査を実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ等の植物について、個体の維持・増殖を行う。	自然環境担当	みどり自然課
15	鳥獣保護管理対策事業 (調査等)	県内に生息する鳥獣類に関する生息状況や生態系への影響等に関する情報の収集・蓄積を行う。また、奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林において、現在進行しているニホンジカによる食害の状況を経年的に調査・把握する。	自然環境担当	みどり自然課
16	生物多様性保全総合対策事業 (調査等)	生物多様性に影響を及ぼす特定外来生物を中心に県内での生息・生育状況等を把握する。	自然環境担当	みどり自然課
17	産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設等における廃棄物中のアスベスト分析を行い、行政指導の支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課
18	廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周辺に与える支障の有無を評価する。また、不法投棄された廃棄物や不適正に管理された土砂等の検査や撤去等に必要な調査を実施し、生活環境への影響評価、支障軽減対策を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課
19	環境産業へのステージアップ事業	中小企業である本県産業廃棄物処理業界の安定した経営基盤の構築のための助言や技術的な支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課
20	廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設（最終処分場及び焼却施設）の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課

	事業名	目的	担当	関係課
21	資源リサイクル拠点環境調査研究事業（埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖）	埼玉県環境整備センターの浸出水、放流水、地下水の水質検査、並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課
22	サーキュラーエコノミー推進事業	県内のサーキュラーエコノミーを推進するために、大規模集客施設における実証試験、県民への啓発等の支援、複数の民間事業者が連携して取り組むサーキュラーエコノミー型ビジネスモデル創出に対する助言等を行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課
23	工場・事業場大気規制事業（ダイオキシン類）	ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排ガスやばいじん等に対する排出規制の徹底を図る。	化学物質・環境放射能担当	大気環境課
24	工場・事業場水質規制事業（ダイオキシン類）	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質・環境放射能担当	水環境課
25	水質監視事業（ダイオキシン類汚染対策調査）	環境基準を超過する濃度が観測されている河川について、汚染の動向を監視する視点から調査、解析・考察を行う。	化学物質・環境放射能担当	水環境課
26	資源リサイクル拠点環境調査研究事業（ダイオキシン類調査（大気））	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター及び資源循環工場の周辺地域の環境調査を継続的に実施する。	化学物質・環境放射能担当	資源循環推進課
27	化学物質総合対策推進事業（工業団地等周辺環境調査及び包括的モニタリング調査）	化学物質排出把握管理促進法対象化学物質の大気中濃度を把握するため、県内一般環境大気及び事業所周辺の大気環境濃度を調査するとともに、過去の調査データを再解析する。	化学物質・環境放射能担当 大気環境担当	大気環境課
28	環境放射線調査事業	一般環境における放射性物質調査を実施し、県民の安心・安全を確保する。	化学物質・環境放射能担当	大気環境課 （原子力規制庁委託） 水環境課
29	水質監視事業（公共用水域）	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、人の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当	水環境課
30	工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例に基づき、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析(クロスチェック)を行い、水質汚濁の防止に役立てる。	水環境担当	水環境課 各環境管理事務所
31	水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課
32	水質監視事業（地下水常時監視）	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌・地下水・地盤担当	水環境課

	事業名	目的	担当	関係課
33	土壌・地盤環境対策事業	汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析・解析等により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。また、地下水汚染の拡散方向を把握するため、表層地形を解析して地下水流向を特定する。	土壌・地下水・地盤担当	水環境課 各環境管理事務所
34	地理環境情報システム整備事業	環境保全施策策定に資するための基礎的な環境情報を地理情報システムとして整備するとともに、電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環境学習や環境保全活動を支援する。	土壌・地下水・地盤担当	環境政策課
35	希少野生生物保護事業（委託）	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」に基づいた希少野生生物保護施策を実施する。	生物多様性保全担当	みどり自然課
36	鳥獣保護管理対策事業（委託）	湿地の保全や鳥獣保護区の設定等に活用される全国的な基礎データを作成するため、県内においてガンカモ類の生息調査を実施する。	生物多様性保全担当	みどり自然課
37	野生生物保護事業（委託）	野生生物（カワウ、オオタカなど）の生息数や生息地を適正なものとするため、生息状況等を調査する。	生物多様性保全担当	みどり自然課
38	生物多様性保全総合対策事業（委託）	多種多様な動植物が生息・生育できる自然環境を保全・創出し、多様な生態系を維持するため、希少野生生物の保護や特定外来生物の防除を実施する。	生物多様性保全担当	みどり自然課

（注） 概要は、7. 3 行政令達概要を参照。

5.3 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関等から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を行っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定（平成12年6月）、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書（平成14年3月）及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定（平成20年5月）を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

令和6年度は、国内外52課題を実施した。

5.3.1 国内の大学・民間企業等との共同研究・研究協力

(47課題)

	連携先	研究課題名等	担当者
1	(国研)産業技術総合研究所	「埼玉県南東部の3次元地質地盤図作成」 既存ボーリングデータおよび実際に掘削したボーリング調査の結果を基に埼玉県南東部を対象とした3次元地質地盤図を作成する。	八戸昭一
2	(国研)国立環境研究所、福島県環境創造センター、札幌市衛生研究所、栃木県保健環境センター、神奈川県環境科学センター、三重県保健環境研究所、香川県環境保健研究センター、福岡県保健環境研究所	「アサガオ新規品種を用いた環境ストレス影響評価およびモニタリング」(Ⅱ型実施共同研究) 本研究では、分子的メカニズムに基づくストレス診断によって野外における植物の環境影響評価とモニタリングを行い、環境情報を充実させるとともに、大気環境の保全に取り組むための科学的知見を蓄積する。また、市民の理解を深めるために各地域の特性を考慮しながら研究結果の普及を図る。	三輪誠
3	早稲田大学	「大気微小粒子の実態および磁気的特性の解明」 「氷晶核の実態解明」 大気中の磁性粒子の実態はまだほとんど分かっていない。当センターで開発した粒子状物質の「磁気分離法」を応用し、大気粒子の磁気分離と磁気的特性及びその化学組成を解明する。また、雲や雨の形成において不可欠な粒子である氷晶核の計測及び実態を解明する。	米持真一 村田浩太郎
4	吉野電化工業(株)	「大気および土壤中粒子試料の磁気特性解明」 磁性粒子は様々な発生源や過程を経て大気中に放出されると考えられ、人体へ悪影響を及ぼす可能性が指摘されているが、その特性や発生源は十分に解明されていない。本研究では、磁性粒子の発生が想定される発生源の近傍で採取した大気粒子の磁化特性の測定を行うことで、発生する磁性粒子の特徴を明らかにする。	米持真一
5	NTTアドバンステクノロジー(株)	「ドローンを活用した高高度大気計測の検討」 高高度まで安定して飛ばすことのできるドローン技術を用い、人間の生活圏より更に高い高度における大気・ガスの状況を調査することで、環境問題の究明及び解決に繋げることを目指す。	米持真一 市川有二郎 村田浩太郎
6	東洋大学	「大気中粒子状物質の磁性に関する研究」 磁性粒子はアルツハイマー病の原因物質の一つとして考えられているが、磁性粒子に関する発生源、空間的濃度分布、化学成分との関係性等に関する知見が不足している。本研究では大気試料を採取し、磁性粒子の割合、金属成分等、粒径分布等の物理化学特性の解明を試みる。	米持真一

	連携先	研究課題名等	担当者
7	(国研)国立環境研究所、(国研)理化学研究所、名古屋市立大学、公立鳥取環境大学、北九州市立大学、千葉大学、(国研)産業技術総合研究所	「情報科学の援用による多様な化学物質の包括的・即応的環境計測」(再掲)	大塚宜寿 竹峰秀祐
8	日本ウォーターズ(株)	「窒素キャリアーガスおよびAPGCイオン化法を用いたGC/MSによるダイオキシン類の分析法の検討」 窒素ガスキャリアーでも感度が減少しないAPGCイオン化法を用いたGC/MSによるダイオキシン類の分析法を検討し、異性体の分離度・感度を確認するとともに実用性を検証する。	大塚宜寿 蓑毛康太郎 竹峰秀祐
9	(株)渡辺製作所	「IoT暑さ指数計の製品化及び社会実装化に関する研究」 当センターが開発したIoT暑さ指数計の熱中症対策への活用と社会実装化を促進するため、開発したIoT暑さ指数計の観測精度・信頼性の向上を目指す。	大和広明
10	(株)渡辺製作所 (株)建設技術研究所	「熱中症等の気象災害を防ぐための意思決定を支援する情報共有ツールの開発及び社会実装に関する研究」 暑さ指数などの気象観測データに基づいて熱中症等の気象災害を防ぐための意思決定を支援する情報共有ツールを開発すること。	大和広明
11	(国研)国立環境研究所、九州大学、(一財)電力中央研究所、(一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター	「2050カーボンニュートラル環境での国内地表オゾンの予測と低オゾン・脱炭素コベネフィット戦略の提示」(再掲)	河野なつ美
12	筑波大学、東京科学技術大学	「気候変動下で激甚化する都市型水害の減災に向けた都市型豪雨のモデル精緻化と不確実性の低い予測技術の開発」(再掲)	河野なつ美 山上晃央
13	東京大学、東北大学、(国研)農業・食品産業技術総合機構、ほか25機関	「地域気象データと先端学術による戦略的社会共創拠点(ClimCORE)」(再掲)	河野なつ美
14	気象庁気象研究所	「夏季の北極低気圧の理解と短期～季節内スケールの北極大気予測精度向上に関する研究」(再掲)	山上晃央
15	(国研)国立環境研究所、群馬県衛生環境研究所、ほか38機関	「光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み」(Ⅱ型実施共同研究) 光化学オキシダントは依然として全国的に改善傾向が見られていない。また、PM2.5は、高濃度事象は減少したが一部地域では環境基準が達成できていない。本研究では、これまで取得してきた膨大なデータの利活用を図り、気候変動、越境汚染等を視野に入れた各地域の大気汚染物質の高濃度化要因の解明、統計モデルを用いて前駆物質の排出量の変化による大気汚染物質濃度の傾向をより正確に評価することを目指す。また、測定・調査地点の選定や注意報発令の地域区分設定等の行政支援のための検討も合わせて行う。	長谷川就一 河野なつ美
16	(一財)日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター	「観測タワーとドローンの統合観測による多成分BVOC放出フラックスの面的不確実性評価」(再掲)	市川有二郎 米持真一
17	東洋大学	「多成分BVOC放出フラックスと鉛直プロファイルに係る観測研究」 生物起源揮発性有機化合物(BVOC)は地球規模の炭素循環や気候変動、地域規模の光化学大気汚染に大きな影響を与えており、主要排出源である森林生態系のBVOC放出量に係る研究は重要である。東京農工大FM多摩丘陵の演習林(主要樹種:コナラ、スギ)に設置された大気観測鉄塔を活用し、季節別BVOC放出フラックスや鉛直プロファイルに係る観測を行う。	市川有二郎

	連携先	研究課題名等	担当者
18	東洋大学	「大気環境中に存在する氷晶核の実態解明」 雲を構成する氷晶の形成には氷晶核というエアロゾル粒子が必要不可欠であるが、それらの実大気中での存在量や活性度、粒子種ごとの雲や降雨形成への寄与度については観測知見が不足している。本研究では大気中浮遊粒子や湿性沈着物等の大気環境試料に含まれる氷晶核の計測を実施し、実大気中における氷晶核の実態解明を試みる。これを補足する情報として、試料のイオン成分等の化学成分分析に加え、室内実験として人工的に作製した標準粒子の氷晶核としての活性評価試験も実施する。	村田浩太郎
19	山形大学、日本獣医生命科学大学、(国研)農業・食品産業技術総合研究機構	「人口減少および気候変動に対する野生動物の行動・生態・生理的応答指標の確立」(再掲)	角田裕志
20	東洋大学	「外来生物の分布拡大予測モデルの構築に関する研究」 埼玉県にて問題となっているアライグマ等の外来生物の捕獲データを用いてその個体群動態や生息環境条件を統計モデリングによって評価・予測し、効果的な防除対策への寄与を目指す。	角田裕志
21	埼玉大学	「外来生物の分布予測モデルの高度化に関する研究」 埼玉県にて問題となっている外来生物クビアカツヤカミキリの分布データを、高精度のサクラ分布データを含む地理情報データを併用した統計モデリングにより解析し、より精度の高い分布予測を可能とすることで、本種の効果的な防除対策を目指す。	角田裕志
22	日本工営(株)	「アスベストAI画像解析ソフトの開発」 国内外における災害復興でのがれき処理時の健康被害防止のため、建材中の石綿簡易判別法における石綿繊維みなし判断を行えるAI解析ソフトの開発を目指す。	川崎幹生
23	(国研)国立環境研究所、鳥取県衛生環境研究所、ほか12機関	「廃棄物最終処分場の廃止判断と適正な跡地利用に資する多面的評価手法の適用に関する検討」(Ⅱ型実施共同研究) 地方環境研究所は廃棄物最終処分場の廃止に係る技術的な助言が求められる立場にあり、環境安全性確保という監督者責任を持つ自治体、利益に関わる施設管理者の相互理解を図るうえで、経験に裏付けされた科学的・合理的根拠を示す必要がある。そこで、各地方環境研究所が有する知見の共有と横断的な支援を可能にするネットワーク形成を図る。また、最終処分場の現場特異性と跡地の利用を考慮した、科学的かつ総合的な廃止の評価手法を構築する。	長谷隆仁 長森正尚 磯部友護
24	(国研)国立環境研究所、岩手県環境保健研究センター、ほか44機関	「災害時等における化学物質の網羅的簡易迅速測定法を活用した緊急調査プロトコルの開発」(Ⅱ型実施共同研究) 事故・災害時において初動時スクリーニングに有効な、GC/MSによる全自動同定定量データベースシステムの構築を目的とする。	堀井勇一 大塚宜寿
25	(国研)国立環境研究所、富山県立大学、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「底質及び底生食物網に着目したシロキサン類の多媒体残留蓄積性評価」(再掲)	堀井勇一 安野翔
26	(国研)国立環境研究所、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所、ほか19機関	「公共用水域における有機-無機化学物質まで拡張した生態リスク評価に向けた研究」(Ⅱ型実施共同研究) 有機化学物質だけでなく無機化学物質まで対象とする水媒体のスクリーニング分析を行う。スクリーニングした物質について正確な定量を実施し、リスク評価を行う。	竹峰秀祐 渡辺洋一 北島卓磨 高沢麻里

	連携先	研究課題名等	担当者
27	(公財)埼玉県下水道公社	「人工甘味料濃度および蛍光強度を利用した下水道不明水の浸入箇所の推定手法の検討」 人工甘味料濃度や蛍光強度等の環境分子マーカーを利用し、下水管きよの不明水の浸入箇所を推定する方法について検討する。	竹峰秀祐 池田和弘
28	内藤環境管理(株)	「中鎖塩素化パラフィンの標準品の組成決定と分析法の検討」 LC/TOFMSを用いて質量スペクトル干渉を低減した分析法の確立及びシグナル比から定量用標準の組成決定を行う。さらに、LC/四重極型MSを用いた分析法についても検討する。	竹峰秀祐
29	(国研)国立環境研究所、名古屋市環境科学調査センター、ほか8機関	「多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用に関する研究」(Ⅱ型実施共同研究) 魚等のへい死を伴う水質事故対応は、一般に化学物質の分析が行われている。これに対して、生物応答試験は未規制物質をはじめ総合的な毒性を評価することができる。急性毒性試験は感度に問題はあるが、技術的に容易で短時間で評価できる点に価値があることから、河川や湖沼また淡水から汽水まで多様な水環境での活用を検討する。	田中仁志
30	東北工業大学	「マイクロプラスチック対策に向けた現状把握と環境教育手法の開発」 マイクロプラスチックの環境学習方法の開発に向けたマイクロプラスチック現状把握を実施する。得られた結果は、マイクロプラスチック汚染実態情報として、環境学習手法の開発に活用する。	田中仁志
31	東北工業大学、東洋大学	「水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及」(再掲)	田中仁志 木持謙
32	東洋大学	「環境DNA分析を用いた水生生物情報提供による市民の水辺価値評価向上手法の提案」(再掲)	木持謙
33	早稲田大学	「バイオフィenton法を組込んだ高性能膜分離活性汚泥法の研究開発」(再掲)	木持謙
34	大阪工業大学	「蛍光分析で検出されるトリプトファン様物質ピークの由来はタンパク質かタンニンか」(再掲)	池田和弘
35	東洋大学	「アナモックス反応を応用した実践的窒素除去方法の検討と課題整理」 アナモックス反応は、エネルギー消費が少ない新しい窒素除去法として注目されている。しかし、国内の下水処理場での実践例は少ない。本研究では下水処理場のメインストリームでのアナモックス処理の実用化を目指し、培養細菌を用いたラボスケール実験を実施する。低窒素濃度下での処理特性を評価するとともに、金属元素の影響や亜硝酸酸化細菌による阻害要因を分析する。	見島伊織
36	東洋大学	「低炭素化を志向した多段的アナモックス活用による排水中の窒素除去の高度化」(再掲)	見島伊織
37	(国研)国立環境研究所、大阪大学、東京大学、いであ(株)、(公財)ひょうご環境創造協会兵庫県環境研究センター、東京科学大学、長崎大学、(特非)海辺つくり研究会、国土技術政策総合研究所、神奈川大学、(国研)理化学研究所、(公財)東京都環境公社東京都環境科学研究所	「沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践」(再掲)	見島伊織

	連携先	研究課題名等	担当者
38	滋賀県立大学	「小型浄化槽の海外展開を志向した処理性能の可視化」(再掲)	見島伊織
39	(国研)理化学研究所	「浮遊細菌を介した未知の窒素動態が淡水圏の窒素循環に与える影響」(再掲)	渡邊圭司
40	太平洋セメント(株)	「黄鉄鉱含有堆積物を対象とした土壌汚染対策技術の開発に関する研究」 本研究では、黄鉄鉱含有堆積物が引き起こす土壌の酸性化現象を抑制するための対策技術を開発する。本法は覆土処理や遮水シート処理のような大掛かりな土木工事を必要としないため、対策技術の低コスト化が実現でき、民間企業と提携することで開発技術の社会実装化を目指す。	石山高
41	(国研)産業技術総合研究所、秋田大学	「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。	濱元栄起 八戸昭一
42	(国研)産業技術総合研究所、神奈川県温泉地学研究所	「衛星熱画像を活用した次世代型地中熱源ヒートポンプの適地評価手法の開発」(再掲)	濱元栄起
43	(国研)産業技術総合研究所、(地独)北海道立総合研究機構、静岡県環境衛生科学研究所、岐阜大学、金沢大学、秋田大学	「地方における再エネ熱面的利用促進に資する導入支援技術の開発」(再掲)	濱元栄起 石山高 柿本貴志 高沢麻里 嶋田知英 大和広明
44	大起理化工業(株)	「円筒電熱型熱伝導測定装置の開発～実用化に向けた検討～」 地中熱利用システムを適切な規模で設置する場合には、地盤の熱の伝わりやすさである「有効熱伝導率」を測定することが重要である。本共同研究では従来に比べて簡易にそして迅速に測定できる装置について検討する。	濱元栄起
45	大阪公立大学	「生活用水確保困難地域の推定と防災井戸拡充手法に関する研究」 災害に伴う断水被害が近年頻繁に起こっており、水道施設の耐震性強化ばかりでなく、地域の水資源を活用した水確保手段の多重化が必要である。本研究では、断水時に井戸から生活用水を得るため、民間井戸所有者の登録制度の課題を整理すること等を通じて、断水時の生活用水が確保しやすい地域を形成するための知見を得ることを目指す。	柿本貴志
46	東京農工大学	「埋立およびリサイクルによるプラスチック添加剤の環境汚染実態の解明」(再掲)	高沢麻里
47	(株)アイスティサイエンス、星薬科大学	「自動前処理装置SPL-W100の変改によるペルフルオロアルキル化合物(PFASs)分析への適用」 ペルフルオロアルキル化合物(PFASs)は環境残留性が高いことから世界的に問題視されている。令和4年6月、米国環境保護庁(EPA)よりPFASsの一種であるPFOA及びPFOSの要求分析下限値を0.004及び0.02 ng/Lと定めることが提案された。これらの要求分析下限値は厳しく、特にPFOAは作業環境等からの汚染が著しいため、定量下限値が高くなってしまいう問題がある。本研究ではバックグラウンドを低減できるよう半閉鎖空間における自動前処理手法に着目した。現行機である自動前処理装置の内部構造や使用パーツを検討することで汚染発生源を特定し、ブランク値低減を試みる。改変された装置を用いて環境水の分析へ適用し、厳しい要求分析下限値の達成を目指す。	高沢麻里 竹峰秀祐

(注) (再掲)の課題は、5. 2. 2 競争的研究費による研究事業及び7. 2 競争的研究費による研究の概要を参照。

5.3.2 国際共同研究

(5課題)

	事業名・期間・連携先	研究課題名等	担 当 者
1	(独)日本学術振興会 科学研究費助成事業 (基金) (令和3～6年度) その他連携先: 早稲田大学、さいたま市健康科学研究センター 相手国連携先: 中国・上海大学、韓国・済州大学校	「各種発生源から大気中に放出される磁性粒子の特性解明」(再掲)	米持真一 (代表)
2	アジア太平洋地球変動研究ネットワーク (令和6～7年度) 研究代表: マレーシア国民大学 その他連携先: 筑波大学 相手国連携先: ベトナム・ハノイ鉱山地質大学、インドネシア国立研究革新庁、ベトナム・ハノイ科学技術大学、ベトナム・ハイフォン市環境モニタリングセンター、ベトナム気象・水文・気候変動研究所、インドネシア気象気候地球物理庁	「東南アジアのメガシティにおける都市温暖化影響の評価: 土地利用と気候変動、熱波の統合的研究」 東南アジアの大都市では、気候変動とヒートアイランド(UHI)の2つの温暖化に直面している。UHIを緩和し、持続的な都市開発を推進する政策に反して、UHIを直接規制する法律がなく、またグリーンインフラの統合や国民の意識が不十分であることが課題だと指摘されている。そのため、本研究課題ではマレーシア・クアラルンプールを対象として、リモートセンシング、空間解析、気候モデリングを統合させてUHIと土地利用・土地被覆、地域気候帯との関連を分析し、UHI低減のための科学・政策・行動間のコミュニケーションの枠組みを確立させる。	河野なつ美
3	EANETにおけるVOCsに関連する能力強化に向けた事業 (令和5～8年度) 研究代表: 環境省 その他連携先: (一財)日本環境衛生センターアジア大気汚染研究センター 相手国連携先: フィリピン、モンゴル、ベトナム、カンボジア	「東アジアにおける揮発性有機化合物(VOCs)のモニタリングとキャパシティービルディング」 東アジア各国ではVOCsの発生源構造が異なることから、VOCsの各国間比較による汚染実態の差異とその要因の解明を目指す。	市川有二郎 佐坂公規 米持真一 河野なつ美
4	(独)日本学術振興会 国際共同研究加速基金(海外連携研究) (令和6～8年度) 研究代表: 早稲田大学 その他連携先: 帝京科学大学 相手国連携先: カンボジア・アプサラ機構	「アンコール遺跡保全と持続可能な観光のための大気環境管理戦略」(再掲)	村田浩太郎
5	(独)日本学術振興会 二国間交流事業 (令和6年度) その他連携先: 広島大学 相手国連携先: 、チリ・フェデリコサンタマリア工科大学、チリ・アントファガスタ大学、チリ・マゼラン大学	「大気・陸・海を循環するマイクロ(ナノ)プラスチックの共同研究に向けた日智セミナー」(再掲)	田中仁志 (代表) 磯部友護 村田浩太郎

(注) (再掲)の課題は、5.2.2 競争的研究費による研究事業及び7.2 競争的研究費による研究の概要を参照。

5.3.3 大学・大学院等からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院等から派遣された学生に研究指導を行った。なお、大学からの依頼による実習生の受け入れはなかった。

大学等との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

(受入22名)

所 属		摘 要
東洋大学理工学部	13名	井坂和一 教授
東洋大学理工学部	9名	反町篤行 教授

5.3.4 客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
石崎紀子	国立研究開発法人国立環境研究所気候変動適応センター 主任研究員
速水洋	早稲田大学理工学術院国際理工学センター 教授
秋田 祐介	埼玉工業大学工学部生命環境化学科 准教授
岡山朋子	大正大学地域創生学部地域創生学科 教授
遠藤崇浩	大阪公立大学大学院現代システム科学研究科現代システム科学専攻 教授
星野弘志	認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉 代表理事
大原利真	一般財団法人日本環境衛生センター アジア大気汚染研究センター 所長

5.3.5 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
浅枝隆	埼玉大学大学院理工学研究科 名誉教授
金子弥生	東京農工大学大学院農学研究院 准教授
高橋潔	国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム領域 副領域長
松田和秀	東京農工大学農学部附属都市圏フィールドサイエンス教育研究センター 教授
宮脇健太郎	明星大学理工学部 教授
四ノ宮美保	大妻学院大妻女子大学社会情報学部 教授
小松登志子	埼玉大学大学院理工学研究科 名誉教授

5.4 学会等における研究発表

5.4.1 論文

(30件)

	論 文 名	執 筆 者	掲 載 誌
1	Studies on adsorption and synergistic biological effects induced by microplastic particles and the Platanus pollen allergenic protein 3(Pla a3)	G. Hou, W. Hu, J. Zhao, J. Lu, W. Zhang, X. Liu, S. Lu, <u>S. Yonemochi</u> , E. C. Ebere, Q. Wang	Environmental Pollution, Vol.373, No.15, 126149 (2025). DOI: 10.1016/j.envpol.2025.126149
2	気候変動の予測研究と適応の意思決定をつなぐ	高薮出、花崎直太、塩竈秀夫、安部大介、生駒栄司、石川洋一、江守正多、大場あい、小埜恒夫、嶋田知英、田浦健朗、高橋潔、仲江川敏之、中北英一、西森基貴、初鹿宏壮、福渡潔、真砂佳史、三上直之、横木裕宗、吉川実、渡部雅浩	水文・水資源学会誌、Vol.37、No.2、167-176 (2024) DOI: 10.3178/jjshwr.37.1823
3	Reduction in anthropogenic CO ₂ emissions detected through two decades of observation in the Tokyo Metropolitan Area	<u>T. Ohara</u> , <u>Y. Muto</u> , J. Kurokawa, <u>T. Shimada</u> , <u>M Uematsu</u>	Atmosphere, Vol.16, Issue 4, 364 (2025) DOI: 10.3390/atmos16040364
4	Factors contributing to high-temperature areas on sunny summer days in the central Kanto plain: An investigation of their relationship with the surface wind system	<u>H. Yamato</u> , H. Takahashi, T. Mikami	Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University, Vol.60, 97-104 (2025)
5	All-cause and cause-specific mortality associated with long-term exposure to fine particulate matter in Japan: The Ibaraki Prefectural Health Study	T. Michikawa, Y. Nishiwaki, K. Asakura, T. Okamura, T. Takebayashi, <u>S. Hasegawa</u> , A. Milojevic, M. Minami, M. Taguri, A. Takeuchi, K. Ueda, T. Sairenchi, K. Yamagishi, H. Iso, F. Irie, H. Nitta	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis (Advance online publication), 65424 (2025) DOI: 10.5551/jat.65424
6	Development and application of a cost-effective analytical method for hydrofluorocarbons using preconcentrator-Gas Chromatograph-Mass Spectrometer	<u>Y. Ichikawa</u> , Y. Ono, <u>K. Sasaka</u>	Atmosphere, Vol.16, Issue 1, 69 (2025) DOI: 10.3390/atmos16010069
7	Tetracycline removal from aqueous solution by magnetic biochar modified with different iron valences: A comparative study	Y. Wang, S. Xu, Q. Wang, K. Hu, H. Zhang, J. Chang, N. Liu, <u>K. Oh</u> , H. Cheng	Separation and Purification Technology, Vol.339, 126614 (2024) DOI: 10.1016/j.seppur.2024.126614
8	Impact of a complex passivating agent on heavy metal immobilization in pig manure and plant development	Y. Li, H. Zhao, X. Liang, X. Zhao, S. Li, <u>K. Oh</u> , D. Jiang, T. Li, T. Cao	Environments, Vol.11, Issue 12, 290 (2024) DOI:10.3390/environments11120290
9	Evaluation of petroleum hydrocarbon-contaminated soil remediation technologies and their effects on soybean growth	D. Jiang, T. Li, X. Liang, X. Zhao, S. Li, Y. Li, <u>K. Oh</u> , H. Liu, T. Cao	Environments, Vol.12, Issue 1, 6 (2025) DOI:10.3390/environments12010006

	論文名	執筆者	掲載誌
10	Tetracycline degradation by persulfate assisted by Fe and N co-doped biochar derived from spent mushroom substrate for sustainability: effect of pyrolysis temperature	S. Xu, J. Chang, Y. Liu, B. Wei, H. Zhang, <u>K. Oh</u> , C. Cheng, H. Cheng	Sustainability, Vol.17, No.2, 395 (2025) DOI: 10.3390/su17020395
11	Volatile fatty acid production from different spent mushroom substrates via anaerobic fermentation: Hydrolysis and acidogenesis efficiency and bacterial community structure	Q. Wang, Z. Liu, X. Gao, B. Cai, H. Zhang, J. Chang, N. Liu, <u>K. Oh</u> , C. Cheng, J. Liang, H. Cheng	Journal of Environmental Chemical Engineering, Vol.12, Issue 6, 114656, (2024) DOI: 10.1016/j.jece.2024.114656
12	Anthropogenic activities facilitate temporal overlaps and spatial partitions among sympatric canids in a human-modified landscape of Bulgaria	<u>H. Tsunoda</u> , S. Peeva, E. Raichev, K. B. Kirilov, K. Uzunowa, Y. Kaneko	Food Webs, Vol.39, e00344 (2024) DOI: 10.1016/j.fooweb.2024.e00344
13	アカギツネによる貯食・回収行動とタヌキによる貯食場所の訪問	角田裕志、江成広斗、江成はるか	自然環境科学研究、Vol.37、9-14 (2024) DOI: 10.32280/nesr.37.0_9
14	Trophic plasticity of the endemic Japanese weasel in a lowland agricultural landscape	<u>H. Tsunoda</u> , H. Mitsui, C. Newman, S. Watanabe, Y. Kaneko	Hystrix, the Italian Journal of Mammalogy, Vol.35, Issue 1, (2024) DOI: 10.4404/hystrix-00707-2024
15	Developing a system model for articulating the social-ecological impacts of species reintroduction	R. Sakurai, T. Uehara, <u>H. Tsunoda</u> , H. Enari, R. C. Stedman, A. Onuma	Ecology and Society, Vol.29, Issue 2, 9 (2024) DOI: 10.5751/ES-14952-290209
16	埼玉県元荒川の天然記念物指定区間外における絶滅危惧種ムサントミヨの生息状況	梅澤和也、 <u>角田裕志</u>	伊豆沼・内沼研究報告、Vol.18、93-105 (2024) DOI: 10.20745/izu.18.0_93
17	Ecological traits and intraguild competition mediate spatial and temporal overlaps among sympatric mesocarnivores	<u>H. Tsunoda</u> , S. Peeva, E. Raichev, Y. Kaneko	Diversity, Vol.17, Issue 2, 108 (2025) DOI: 10.3390/d17020108
18	Vigilance levels of sika deer in nonhunting areas with moderate human activity	<u>H. Tsunoda</u> , T. Hirao	Acta Ethologica, Vol.28, Issue 1, 27-37 (2025) DOI: 10.1007/s10211-024-00454-8
19	Resource partitioning among endangered and non-native bitterling fishes in a small pond: insights from stable isotope and gut content analyses	<u>N. Yasuno</u> , Y. Fujimoto, E. Kikuchi	Environmental Biology of Fishes, Vol.107, No.4, 459-470 (2024) DOI: 10.1007/s10641-024-01541-2
20	Sources, distribution, and health implications of heavy metals in street dust across industrial, capital city, and peri-urban areas of Bangladesh	Md. S. Rana, Q. Wang, W. Wang, C. E. Enyoh, Md. R. Islam, <u>Y. Isobe</u> , Md. H. Kabir	Atmosphere, Vol.15, Issue 9, 1088 (2024) DOI: 10.3390/atmos15091088
21	Peak separation of all 136 tetra- to octa-chlorinated dibenzo- <i>p</i> -dioxins and dibenzofurans on two 50% phenyl-methyl-siloxane-type gas chromatography columns, DB-17ms and VF-17ms	<u>K. Minomo</u> , <u>N. Ohtsuka</u> , <u>Y. Ochiai</u>	Environmental Monitoring and Contaminants Research, Vol.4, 117-125 (2024) DOI: 10.5985/emcr.20240023
22	キャピラリーカラムDB-17msおよびVF-17msによるPCB全209異性体の溶出順位	蓑毛康太郎、 <u>大塚宜寿</u> 、 <u>落合祐介</u>	環境化学、Vol.35、16-23 (2025) DOI: 10.5985/jec.35.16

	論文名	執筆者	掲載誌
23	Spatiotemporal trends and ecological risk assessment of volatile methylsiloxanes in Tokyo Bay catchment basin, Japan: River water and sewage treatment plant samples	<u>Y. Horii</u> , T. Sakurai, Y. Imaizumi, K. Kuroda, T. I. Hayashi, T. Nishino, <u>S. Takemine</u> , <u>N. Ohtsuka</u>	Science of the Total Environment, Vol.975, 179292 (2025) DOI: 10.1016/j.scitotenv.2025.179292
24	Temporal change of Cs-137 concentration in fruit in the non-decontaminated biotope in Saitama, Japan, after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	<u>Y. Ochiai</u> , <u>K. Minomo</u> , <u>N. Ohtsuka</u> , S. Miyake	Environmental Monitoring and Contaminants Research, Vol.4, 95-98 (2024) DOI: 10.5985/emcr.20240020
25	Solubility of calcium carbonate hemihydrate (CCHH): Where does CCHH occur?	M. Suyama, <u>T. Kitajima</u> , K. Fukushi	Geochemical Perspectives Letters, Vol.31, 27-31 (2024) DOI: 10.7185/geochemlet.2428
26	定期刊行物の紙中ダイオキシン類の経年変化と汚染原因	谷脇夕希、落合祐介、 <u>養毛康太郎</u> 、 <u>大塚宜寿</u>	環境化学、Vol.34、89-93 (2024) DOI: 10.5985/jec.34.89
27	Spatial variation of airborne bacterial heterogeneity and potential opportunistic human pathogens: a comparative study of sites in Korea and Japan	M. Seki, <u>H. Tanaka</u> , <u>S. Yonemochi</u> , K.H. Lee, Y.J. Kim, R. Iwamoto, K. Sato, D. Tanaka	Aerobiologia, Vol.40, 287-295 (2024) DOI: 10.1007/s10453-024-09817-x
28	微生物燃料電池適用が鉄電解式リン除去型浄化槽の処理性能と保持汚泥性状に与える影響	窪田恵一、 <u>見島伊織</u> 、渡邊智秀	土木学会論文集、Vol. 80、No.25、24-25025 (2024) DOI: 10.2208/jscej.24-25025
29	Development and implementation of a highly sensitive method for analyzing chemical forms of iron using XAFS measurements	<u>I. Mishima</u> , K. Kubota, T. Watanabe	Journal of Water and Environment Technology, Vol.23, Issue 1, 46–55 (2025) DOI: 10.2965/jwet.24-077
30	埼玉県内の公共用水域（河川）における大腸菌数環境基準超過地点の特徴	<u>渡邊圭司</u> 、 <u>宮崎実穂</u> 、 <u>池田和弘</u> 、 <u>柿本貴志</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>梅沢夏実</u> 、 <u>田中仁志</u> 、 <u>木持謙</u>	全国環境研会誌、Vol.49、No.4、204-209 (2024)

(注) 当センターの職員には下線を付した。

(注) 抄録は、7. 4. 1 論文抄録を参照

5.4.2 国際学会プロシーディング

(16件)

	論文名	執筆者	会議録
1	Verification of temperature forecasts by observations during an Arctic cruise of R/V Mirai in November 2018 and analysis of positive error cases around the marginal ice zone	<u>A. Yamagami</u> , T. Toyoda, J. Inoue	Proceedings of the 39th International Symposium on the Okhotsk Sea & Polar Oceans, 71-74 (2025) (17 Feb. 2025, Mombetsu, Japan)
2	An estimation of the impact of grid-nudging on the ozone simulation in Asia with WRF-CMAQ model	<u>N. Kawano</u> , T. Nagashima, S. Itahashi, T. Ohara	Abstract of the 16th International Commission on Atmospheric Chemistry and Global Pollution Symposium and 18th International Global Atmospheric Chemistry (iCACGP-IGAC) Science Conference, P79 (2024) (10 Sep. 2024, Kuala Lumpur, Malaysia)

	論文名	執筆者	会議録
3	Performance evaluation of JRA-3Q for predictability of extreme events in the Tokyo metropolitan area, Japan	<u>N. Kawano</u> , M. Nishimori, <u>A. Yamagami</u> , <u>T. Shimada</u> , <u>H. Yamato</u>	Abstract of the American Geophysical Union 24, Annual Meeting, A23R-06 (2024) (10 Dec. 2024, Washington D.C., USA)
4	Investigating the influence of distributed anthropogenic heating to simulated atmospheric chemistry	M.D.C. Andal, A.C.G. Varquez, M. Kanda, S. Nagata, M. Takigawa, P. Patra, P. Griffiths, <u>N. Kawano</u> , Q. Van Doan, <u>A. Yamakami</u>	Abstract of the American Geophysical Union 24, Annual Meeting, A34H-03 (2024) (11 Dec. 2024, Washington D.C., USA)
5	A future projection of the impact of emissions from nature on the summertime surface ozone concentration in Asian metropolitan areas with WRF-CMAQ model	<u>N. Kawano</u> , T. Nagashima, S. Itahashi, T. Ohara, S. Chatani	Abstract of the Plant Molecular Phenology and Climate Feedbacks Mediated by BVOCs (PCF2024), 32 (2024) (30 Oct. 2024, Gifu, Japan)
6	Long-term exposure to PM2.5 and mortality among Japanese community-dwelling adults	T. Michikawa, Y. Nishiwaki, K. Asakura, T. Okamura, T. Takebayashi, <u>S. Hasegawa</u> , A. Milojevic, M. Minami, M. Taguri, A. Takeuchi, K. Ueda, T. Sairenchi, K. Yamagishi, H. Iso, F. Irie, H. Nitta	Abstract of the 17th European Public Health Conference 2024, iii541 (2024) (13-15 Nov. 2024, Lisbon, Portugal)
7	BVOCs vertical distribution and emission flux in a forested area in the suburbs of Tokyo and evaluation of BVOCs areal variability in the upper canopy using a drone	<u>Y. Ichikawa</u> , K. Yoshida, <u>S. Yonemochi</u> , <u>K. Sasaka</u> , Y. Yamamoto, K. Wright, H. Watanabe, K. Takagi, A. Sorimachi, K. Matsuda, T. Ohara	Abstract of the Plant Molecular Phenology and Climate Feedbacks Mediated by BVOCs (PCF2024), 47 (2024) (30 Oct. 2024, Gifu, Japan)
8	Phytoremediation research for contaminated soils to conserve soil resources, produce biomass and achieve sustainable development	<u>K. Oh</u>	Abstract of the 2024 4th Asia Environment Pollution and Prevention Conference, 8 (2024) (9-11 Oct. 2024, Tokyo, Japan)
9	Study on the profit generation phytoremediation technology for the utilization and remediation of soils contaminated with heavy metal	<u>K. Oh</u>	Abstract of the 11th International Conference on Advances in Environment Research, 12 (2025) (18 Jan. 2025, Osaka, Japan)
10	Evaluating trophic transfer of methylsiloxanens in the benthic food web from Tokyo Bay, Japan	<u>Y. Horii</u> , <u>N. Yasuno</u> , T. Sakurai	Abstract of the 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 522-526 (2024) (30 Sep. - 1 Oct. 2024, Singapore)
11	Determination of dioxins by APGC-MS/MS using nitrogen carrier gas	<u>S. Takemine</u> , K. Kotera, T. Miyawaki, T. Ezaki, <u>K. Minomo</u> , <u>Y. Horii</u> , <u>N. Ohtsuka</u>	Abstract of the 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 25-28 (2024) (30 Sep. 2024, Singapore)
12	Determination of elution order of all dioxin isomers on a DB-17 MS column using APGC-MS/MS with nitrogen carrier gas	K. Kotera, <u>S. Takemine</u> , T. Miyawaki, T. Ezaki, <u>K. Minomo</u> , <u>N. Ohtsuka</u>	Abstract of the 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 472 (2024) (30 Sep. - 1 Oct. 2024, Singapore)

	論文名	執筆者	会議録
13	Development and implementation of a highly sensitive method for analyzing chemical forms of iron using XAFS measurements	<u>I. Mishima</u> , K. Kubota, T. Watanabe	Abstract of the Water and Environment Technology Conference 2024, 8 (2024) (20 Jul. 2024, Okayama, Japan)
14	Subsurface warming progress in the Tokyo metropolitan area, Japan: Long-term subsurface thermal environment changes due to effects of urbanization and groundwater development	A. Miyakoshi, T. Hayashi, <u>H. Hamamoto</u> , <u>S. Hachinohe</u>	Abstract of the 2024 IAH, 105750 (2024) (12 Sep. 2024, Davos, Switzerland)
15	Analytical method development for perfluoroalkyl substances (PFAS) in water sample by online solid phase extraction - liquid chromatography - tandem mass spectrometry	<u>M. Takazawa</u> , <u>S. Takemine</u> , R. Sasano, H. Akiyama	Abstract of the 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 465 (2024) (30 Sep. 2024, Singapore)
16	Highly airtight storage bottle for perfluoroalkyl substances standard	<u>M. Takazawa</u> , <u>S. Takemine</u> , K. Kimura	Abstract of the 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, 466 (2024) (30 Sep. 2024, Singapore)

(注) 当センターの職員には下線を付した。

(注) 抄録は、7. 4. 2 国際学会プロシーディング抄録 を参照。

5.4.3 総説・解説

(16件)

	題名	執筆者	掲載誌
1	丸い地球で環境を考えるー地球に広がるプラスチックー	<u>植松光夫</u>	法人うらわ、No.254、9 (2024)
2	丸い地球で環境を考えるー地球で人が生き残るー	<u>植松光夫</u>	法人うらわ、No.255、3 (2024)
3	丸い地球で環境を考えるー「ゴミ」も積もればー	<u>植松光夫</u>	法人うらわ、No.256、9 (2024)
4	丸い地球で環境を考えるー暑過ぎず、寒過ぎずー	<u>植松光夫</u>	法人うらわ、No.257、4 (2025)
5	名誉会員に就任してー空を通して陸と海をつなぐー	<u>植松光夫</u>	日本海洋学会ニュースレター、Vol. 14、No.2、2-3 (2024)
6	見て、聞いて、触れて、感じて、行動する」環境科学国際センターで楽しく学んでみませんか	<u>内野絵美</u>	ぶぎんレポート、No.294、25-27 (2025)
7	大気中微小粒子に含まれる無機元素の濃度と発生源	<u>米持真一</u>	金属、Vol.94、No.7、4-6 (2024)
8	多様な時空間スケールでの気象学・気候学・大気科学/中緯度域の海洋変動と大気・生物地球化学への影響 高分解能の結合予測実験を用いた熱帯不安定波の形成過程の解析	豊田隆寛、浦川昇吾、相木秀則、中野英之、新藤永樹、吉村裕正、川上雄真、坂本圭、 <u>山上晃央</u> 、牛島悠介、原田やよい、小林ちあき、富田裕之、東塚知己、山中吾郎	月刊海洋、Vol.56、No.4、255-262 (2024)
9	多様な時空間スケールの先進的気象学・気候学・大気科学/北太平洋の変動と極端現象 津軽暖流の季節モードの形成	豊田隆寛、広瀬成章、坂本圭、中野英之、浦川昇吾、川上雄真、青木邦弘、 <u>山上晃央</u> 、牛島悠介、碓氷典久、山中吾郎、中山智治、印貞治、久慈智幸、小藤久毅、田中潔	月刊海洋、Vol.57、No.3、105-113 (2025)

	題 名	執 筆 者	掲 載 誌
10	樹木が放つ揮発性有機化合物の面的な変動性は？～ドローンによる上空観測から探る～	<u>市川有二郎</u>	大気環境学会誌、Vol.60、No.1、A13-A17 (2025) DOI: 10.11298/taiki.60.A7
11	山頂大気中の氷晶核－鋇物ダストとバイオエアロゾル－	<u>村田浩太郎</u>	金属、Vol.94、No.7、27-29 (2024)
12	廃棄物最終処分場から放出される埋立地ガスの評価	<u>長森正尚</u>	廃棄物資源循環学会誌、Vol. 35、No. 6、385-393 (2024)
13	埼玉県河川の河川中マイクロプラスチックの実態	<u>田中仁志</u>	ぶぎんレポート、No.296、34-35 (2025)
14	気候変動・温暖化対策の視点からの埼玉県の取組みと水環境分野における研究開発の展開	木持謙、近藤貴志、T. Shen、稲垣嘉彦、榊原豊	用水と廃水、Vol.66、No.4、298-304 (2024)
15	災害による断水に備える一井戸と地域の絆がもたらす力	<u>柿本貴志</u>	ぶぎんレポート、No.295、28-29 (2025)
16	身の回りに潜在する規制・未規制物質の存在把握と微量化学物質分析技術	<u>高沢麻里</u>	SCAS NEWS、No.2024-I(Vol.59)、3-6 (2024)

(注) 当センターの職員には下線を付した。

(注) 抄録は、7. 4. 3 総説・解説抄録 を参照。

5.4.4 国内学会発表

(115件)

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
1	2024. 5.27	日本地球惑星科学連合2024年連合大会（千葉市）	首都圏で進行する地下温暖化一都市化と地下水開発による地下熱環境変化	宮越昭暢、林武司、 <u>濱元栄起</u> 、 <u>八戸昭一</u>
2	2024. 5.28	日本地球惑星科学連合2024年連合大会（千葉市）	琵琶湖湖底の流体湧出域における堆積物中の温度分布長期計測（招待講演）	山野誠、後藤秀作、 <u>濱元栄起</u> 、小泉尚嗣
3	2024. 6.10	第72回質量分析総合討論会（つくば市）	環境試料のGC/MSスキャン測定データからの非負値行列因子分解を用いたピークの検出	大塚宜寿、 <u>蓑毛康太郎</u> 、橋本俊次
4	2024. 6.12	第29回計算工学講演会（神戸市）	中身が見えない埋立地の予測のための半データ同化の実現に向けて～実務者との対話型プラットフォーム～	石森洋行、磯部友護、石垣智基、山田正人
5	2024. 6.13	第29回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（山形市）	令和5（2023）年度における埼玉県地下水中PFOS及びPFOA調査	<u>高沢麻里</u> 、小西まどか、 <u>石山高</u> 、 <u>茂木守</u>
6	2024. 6.14	第29回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（山形市）	埼玉県北西部における地下水窒素汚染と汚染原因の解析	<u>石山高</u> 、 <u>濱元栄起</u> 、 <u>柿本貴志</u> 、 <u>高沢麻里</u>
7	2024. 6.14	第29回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会（山形市）	災害時協力井戸制度への登録に対する民間企業の意向特性～埼玉県加須市におけるアンケート調査より～	<u>柿本貴志</u> 、 <u>高沢麻里</u> 、 <u>濱元栄起</u> 、 <u>石山高</u> 、遠藤崇浩
8	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会（第32回環境化学討論会）（広島市）	鉄道走行に由来する大気中磁性粒子の特徴	<u>米持真一</u> 、城裕樹、杉山敦史、大河内博、S. Lu
9	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会（第32回環境化学討論会）（広島市）	DB-17msおよびVF-17msガスクロマトグラフィーカラムにおけるダイオキシン類の溶出順序	<u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>落合祐介</u> 、 <u>大塚宜寿</u>

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
10	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	底生食物網に着目したシロキサン類 の生物蓄積性評価：埼玉県元荒川の 研究事例	堀井勇一、 <u>安野翔</u> 、 <u>角田裕志</u> 、 <u>櫻井健郎</u>
11	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	オンラインSPE-GC/MSと自動同定 定量システム(AIQS)を用いた河川 水中農薬分析法の検討	浅井智紀、新川翔也、 佐々野僚一、 <u>堀井勇一</u> 、 <u>竹峰秀祐</u>
12	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	LC/QTOFMSによる土壌中の除草 剤の同定と定量	<u>竹峰秀祐</u> 、高沢麻里、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>堀井勇一</u> 、 <u>落合祐介</u> 、 <u>渡辺洋一</u> 、 <u>大塚宜寿</u> 、 <u>橋本俊次</u>
13	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	窒素キャリアガスを用いた高感度ダ イオキシン類分析と全異性体の溶出 順位確定	小寺和樹、 <u>竹峰秀祐</u> 、 宮脇俊文、江崎達哉、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>大塚宜寿</u>
14	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	LC-QTOFMSデータ非依存型測定 による国内河川水中の化学物質ター ゲットスクリーニング	伊藤朋子、岩淵勝己、 戸渡寛法、 <u>竹峰秀祐</u> 、 高木総吉、八木正博、 吉野共広、宮脇崇、 中島大介、門上希和夫
15	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	LC-QTOF-MSのSWATH測定デー タを用いた10000種の化学物質のサ スペクトスクリーニング(1)-解析手 法の開発-	門上希和夫、宮脇崇、 岩淵勝己、戸渡寛法、 高木総吉、八木正博、 吉野共広、伊藤朋子、 <u>竹峰秀祐</u> 、会田祐司、 中島大介
16	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	LC-QTOF-MSのSWATH測定デー タを用いた10000化学物質のサスペ クトスクリーニング(2)-全国10 河 川調査結果-	門上希和夫、宮脇崇、 岩淵勝己、戸渡寛法、 高木総吉、八木正博、 吉野共広、伊藤朋子、 <u>竹峰秀祐</u> 、中島大介
17	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	環境水中の未知汚染物質の同族列を 同定するノンターゲット液体クロマ トグラフィー／高分解能質量分析法	鈴木茂、上堀美知子、 長谷川瞳、八木正博、 小野純子、吉野共広、 <u>竹峰秀祐</u> 、西野貴裕、 長谷川敦子、東島正哉
18	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	環境異常事象の原因究明を目的とし た化学分析基盤の強化-包括分析法・ ノンターゲット分析法に関する共同 分析の試み(LC/MS)-	松神秀徳、家田曜世、 伊藤朋子、江川真文、 江口哲史、小野純子、 頭士泰之、 <u>竹峰秀祐</u> 、 永吉晴奈、宮崎悦子、 宮脇崇、山本敦史、 吉野共広、橋本俊次
19	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	環境異常事象の原因究明を目的とし た化学分析基盤の強化-包括分析法・ ノンターゲット分析法に関する共同 分析の試み(GC/MS)-	家田曜世、松神秀徳、 <u>竹峰秀祐</u> 、宮脇崇、 橋本俊次
20	2024. 7. 3	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	果実のCs-137長期モニタリング	<u>落合祐介</u> 、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>大塚宜寿</u>
21	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	河川水試料のLC-MSMS Swathデー タからのNMFによるピークの検出	<u>大塚宜寿</u> 、 <u>竹峰秀祐</u> 、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>橋本俊次</u>

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
22	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	指標異性体による4つの主要汚染源 別 TEQ(WHO-TEF2022)の推算方 法	<u>大塚宜寿</u> 、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>落合祐介</u>
23	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	ドローンとフラックスタワーや建物 屋上の並行観測に基づくBVOCs面 的変動性評価	市川有二郎、吉田雄仁、 <u>米持真一</u> 、 <u>佐坂公規</u> 、 山本祐志、クリストフ ァー ライト、 渡邊紘人、反町篤行、 松田和秀、大原利真
24	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	低沸点HFCsの大気観測に向けた測 定法開発	市川有二郎、 <u>小野由紀子</u> 、 <u>佐坂公規</u>
25	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	廃棄物最終処分場内保有水及び周辺 地下水の水質と微生物群集構造	平川周作、伊藤耕二、 矢吹芳教、井上豪、 小口文子、田中宏和、 立野雄也、渡邊卓弥、 松村千里、藤井敬洋、 <u>長森正尚</u> 、 <u>成岡朋弘</u> 、 石垣智基、遠藤和人、 山田正人
26	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	VF-17msガスクロマトグラフィーカ ラムを用いた29のTEF異性体同時分 離の可能性	<u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>落合祐介</u> 、 <u>大塚宜寿</u>
27	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	メチルシロキサン類の魚類における 生物蓄積動力学パラメーターの特性	<u>櫻井健郎</u> 、 <u>小林淳</u> 、 <u>堀井勇一</u>
28	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	窒素キャリアガスを用いた GC/APGC-MS/MSによる環境サン プル中のダイオキシン類の測定	<u>竹峰秀祐</u> 、 <u>小寺和樹</u> 、 <u>宮脇俊文</u> 、 <u>江崎達哉</u> 、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>堀井勇一</u> 、 <u>大塚宜寿</u>
29	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	窒素キャリアガスを用いた高感度高 選択性のダイオキシン類分析法の開 発	<u>江崎達哉</u> 、 <u>小寺和樹</u> 、 <u>竹峰秀祐</u> 、 <u>宮脇俊文</u> 、 <u>蓑毛康太郎</u> 、 <u>大塚宜寿</u>
30	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	固相キレート樹脂を用いた溶存金属 濃度の測定と化学平衡計算の比較	<u>北島卓磨</u> 、 <u>竹峰秀祐</u>
31	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	土壌中多成分PFAS一斉分析法のイン ターラボラトリーテストに関する 報告 I	<u>殷熙洙</u> 、 <u>谷保佐知</u> 、 <u>秦浩司</u> 、 <u>今井志保</u> 、 <u>金子蒼平</u> 、 <u>天日美薫</u> 、 <u>高沢麻里</u> 、 <u>高原玲華</u> 、 <u>古川幸</u> 、 <u>内川綾乃</u> 、 <u>大脇千泉</u> 、 <u>萩野裕基</u> 、 <u>木村辰徳</u> 、 <u>山本彩織</u> 、 <u>北殿康治</u> 、 <u>久保明日香</u> 、 <u>長谷川淳</u> 、 <u>三木芳恵</u> 、 <u>野島智也</u> 、 <u>小野純子</u> 、 <u>梶拓也</u> 、 <u>城代航</u> 、 <u>岩田敏明</u> 、 <u>岩佐奈実</u> 、 <u>醍醐ふみ</u>

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
32	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 (第32回環境化学討論会) (広島市)	環境水中に含有されるPFASのオンラインSPE-LC-MS/MS手法構築に向けた検討	高沢麻里、 <u>竹峰秀祐</u> 、 佐々野僚一、 <u>穂山浩</u>
33	2024. 8.20	第41回エアロゾル科学・技術研究討論会（工学院大学）	2023年夏季の富士山頂大気中における氷晶核数濃度および細菌群集組成	村田浩太郎、大河内博、 <u>鴨川仁</u> 、 <u>米持真一</u>
34	2024. 8.21	第41回エアロゾル科学・技術研究討論会（工学院大学）	埼玉県におけるPM2.5の冬季硝酸塩と前駆物質との関係性	<u>長谷川就一</u> 、 <u>松本利恵</u> 、 <u>長田和雄</u>
35	2024. 9. 7	日本哺乳類学会2024年度大会 (兵庫県立大学)	ニホンジカによる植生改変と人為攪乱は相乗的に中大型哺乳類に恐れ の景観を生み出す	山下純平、千本木洋介、 <u>角田裕志</u> 、 <u>江成広斗</u>
36	2024. 9. 9	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会（つくば市）	一般廃棄物最終処分場への注水試験による水みち探索に関する研究	<u>磯部友護</u> 、 <u>石森洋行</u>
37	2024. 9. 9	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会（つくば市）	廃棄物最終処分場のガス抜き管におけるガス放出量及び深度別ガス組成調査	<u>長森正尚</u> 、 <u>森崎正昭</u> 、 <u>成岡朋弘</u> 、 <u>森明寛</u> 、 <u>政井咲更美</u> 、 <u>吉田英樹</u> 、 <u>石垣智基</u> 、 <u>山田正人</u>
38	2024. 9. 9	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会（つくば市）	ガス抜き管内部に滞留した水のイオン比率を用いた安定化評価事例	田中宏和、古賀敬興、 <u>矢吹芳教</u> 、 <u>井上豪</u> 、 <u>中越章博</u> 、 <u>石川翔一</u> 、 <u>長森正尚</u> 、 <u>成岡朋弘</u> 、 <u>石垣智基</u> 、 <u>遠藤和人</u> 、 <u>山田正人</u>
39	2024. 9. 9	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会（つくば市）	再生材の認定等による利用促進に関する考察	<u>山脇敦</u> 、 <u>小中庸夫</u> 、 <u>川崎幹生</u>
40	2024. 9.10	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会（つくば市）	X線CT分析による不燃残渣および焼却灰埋立層の間隙構造と浸透挙動の評価	<u>石森洋行</u> 、 <u>磯部友護</u> 、 <u>石垣智基</u> 、 <u>山田正人</u>
41	2024. 9.10	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会（つくば市）	最終処分場における浸透性反応層（HPRB）設計のための吸着パラメータ推定	<u>鈴木和将</u> 、 <u>水藤寛</u>
42	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	東京首都圏における長期モニタリングによるCO ₂ 排出削減の検出	<u>大原利真</u> 、 <u>武藤洋介</u> 、 <u>黒川純一</u> 、 <u>嶋田知英</u> 、 <u>植松光夫</u>
43	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	2050カーボンニュートラル環境の国内地表オゾンへの影響	<u>永島達也</u> 、 <u>河野なつ美</u> 、 <u>板橋秀一</u> 、 <u>大原利真</u> 、 <u>鶴野伊津志</u> 、 <u>黒川純一</u> 、 <u>花岡達也</u>
44	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	VOC動態把握のための加熱脱着捕集管による調査法の基礎的検討	<u>佐坂公規</u> 、 <u>市川有二郎</u>
45	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	道路周辺のアノモニア濃度への自動車排出ガスの影響（2）	<u>松本利恵</u> 、 <u>長谷川就一</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>佐坂公規</u> 、 <u>武藤洋介</u> 、 <u>米持真一</u>
46	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	埼玉県加須市における大気中NH ₃ ガス及びNH ₄ ⁺ 粒子濃度の連続測定	<u>松本利恵</u> 、 <u>長谷川就一</u> 、 <u>長田和雄</u>
47	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	四季成分測定の大気データからPM2.5の変化要因をあぶり出す	<u>長谷川就一</u>
48	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	PM2.5成分の長期測定データを用いた自動車排ガス影響の解析	<u>高野七海</u> 、 <u>太田優</u> 、 <u>柴田学</u> 、 <u>丸山敦子</u> 、 <u>久保田光</u> 、 <u>長谷川就一</u>

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
49	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	PM2.5成分の長期測定データを用いた越境汚染の解析	木戸瑞佳、 <u>長谷川就一</u> 、 竹本光義、甲斐太郎、 岩井直樹、加納かおり、 岡本利洋、井料良輔、 菅田誠治
50	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	瀬戸内地域のPM2.5及び前駆体ガス濃度への船舶燃料油規制の効果	浅川大地、加納かおり、 竹本光義、矢達綾那、 甲斐太郎、 <u>藍川昌秀</u> 、 <u>長谷川就一</u>
51	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	多成分HFCsの測定法開発と大気観測	<u>市川有二郎</u> 、 小野由紀子、 <u>佐坂公規</u>
52	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	都市森林域におけるイソプレンの鉛直分布・放出フラックスの通年観測	<u>市川有二郎</u> 、吉田雄仁、 <u>米持真一</u> 、 <u>佐坂公規</u> 、 高木健太郎、反町篤行、 松田和秀、 <u>大原利真</u>
53	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	草地における粒子状硫黄酸化物の沈着速度の実測値とモデル値の比較	増田裕季、吉田雄仁、 北原一樹、佐藤麻依、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 松田和秀、反町篤行
54	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	林床におけるアンモニアの交換フラックス観測	佐々木寛大、増田裕季、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 反町篤行
55	2024. 9.11	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	近郊野菜を対象としたオゾンのクリティカルレベルの検討	<u>米倉哲志</u> 、山口真弘
56	2024. 9.11	第27回日本水環境学会シンポジウム (岩手大学)	LC-QTOF-MSのSWATH測定データを用いた10000種の化学物質のサスペクトスクリーニング	門上希和夫、宮脇崇、 岩渕勝己、戸渡寛法、 高木総吉、八木正博、 吉野共広、伊藤朋子、 <u>竹峰秀祐</u> 、中島大介
57	2024. 9.11	第27回日本水環境学会シンポジウム (岩手大学)	X線吸収微細構造解析 (XAFS法) による微生物燃料電池が鉄形態に及ぼす影響の評価	窪田恵一、 <u>見島伊織</u> 、 渡邊智秀
58	2024. 9.12	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	首都圏における大気中の過酸化物およびアルデヒド類の測定	渡辺幸一、赤堀泰晟、 鍛冶柊兵、茶谷通世、 三辻奈波、高橋立、 篠原和将、篠崎大樹、 大河内博、速水洋、 <u>米持真一</u>
59	2024. 9.12	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	PM2.5成分の長期測定データを用いた硝酸塩の解析	<u>長谷川就一</u>
60	2024. 9.12	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	降雨に含まれる氷晶核およびイオン成分の解析：2023年の観測	<u>村田浩太郎</u> 、 <u>松本利恵</u>
61	2024. 9.13	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	ドローンを活用した関東平野上空の大気汚染物質の同時観測	<u>米持真一</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、石崎亨、 山本祐志、水野誠一郎、 小野翔、磯田ムラー華奈、 クリストファーライト、 渡邊紘人

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
62	2024. 9.13	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	埼玉県における二酸化炭素濃度と大 気汚染物質濃度との関係について	<u>武藤洋介</u>
63	2024. 9.13	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	埼玉県におけるメタンの濃度実態と 地域排出推定	<u>長谷川就一</u>
64	2024. 9.13	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	樹木が放つ揮発性有機化合物の面的 な変動性は？ ～ドローンによる上 空観測から探る～	<u>市川有二郎</u>
65	2024. 9.13	第65回大気環境学会年会 (慶應義塾大学)	異なる施肥条件で栽培したコマツナ の成長と光合成能力に対する高濃度 CO ₂ の影響	山口真弘、野中美紅、 山口真奈、黄瀬佳之、 <u>米倉哲志</u>
66	2024. 9.13	分析化学会第73年会 (名古屋市)	環境異常事象の原因究明を目的とし た化学分析基盤の強化-包括分析法・ ノンターゲット分析法に関する共同 分析の試み-	家田曜世、松神秀徳、 伊藤朋子、江川真文、 江口哲史、小野純子、 頭士泰之、 <u>竹峰秀祐</u> 、 永吉晴奈、宮崎悦子、 宮脇崇、山本敦史、 吉野共広、橋本俊次
67	2024. 9.14 - 9.15	2024年日本地理学会秋季学術 大会（南山大学）	埼玉県内における熱中症リス クの地域性－暑さ指数の観測結果か ら考える熱中症対策	<u>大和広明</u>
68	2024. 9.17	2024年度日本海洋学会秋季大 会（東京海洋大学）	津軽暖流の季節モードの形成過程に ついて	豊田隆寛、広瀬成章、 坂本圭、中野英之、 浦川昇吾、川上雄真、 青木邦弘、 <u>山上晃央</u> 、 牛島悠介、碓氷典久、 山中吾郎、中山智治、 印貞治、久慈智幸、 小藤久毅、田中潔
69	2024. 9.18	応用生態工学会第27回さいた ま大会2024（さいたま市）	Toxicity and accumulation of Boron in freshwater Cladocerans	G.K. Dehini, T. Fujino, <u>I. Mishima</u> , M. Hagimori, S. Takada
70	2024. 9.18	応用生態工学会第27回さいた ま大会（さいたま市）	衛星画像により推定した水田の湛水 開始時期を指標とするカエル類の生 息適地モデル構築	<u>安野翔</u> 、藤田宏之、 <u>大和広明</u>
71	2024. 9.20	日本地球化学会第71回年会 (金沢大学)	富栄養湖沼手賀沼が大気に二酸化炭 素を放出できる訳	時枝隆之、木持謙、 牧野隆平、関根希一
72	2024.10.11	令和6年度全国会議（水道研 究発表会）（神戸市）	水質監視体制の現状評価のための発 生源－水質監視体制－取水地点の現 況マップ作製	<u>柿本貴志</u> 、 <u>池田和弘</u>
73	2024.10.17	日本地下水学会2024年秋季講 演会（長岡市）	関東平野中央部における地中熱実証 試験	濱元栄起、石山高 <u>柿本貴志</u> 、 <u>高沢麻里</u>
74	2024.10.18	日本地下水学会2024年秋季講 演会（長岡市）	令和6年能登半島地震による断水時 の公的給水支援	<u>柿本貴志</u> 、遠藤崇浩、 谷口真人
75	2024.10.19	日本陸水学会第88回大会 (熊本大学)	水田の湛水開始時期はカエル類の分 布に影響するか？：衛星画像を用い た生息適地推定	<u>安野翔</u> 、藤田宏之、 <u>大和広明</u>
76	2024.10.20	日本陸水学会第88回大会 (熊本大学)	千葉県手賀沼の有機物分解特性	時枝隆之、関根希一、 <u>木持謙</u>
77	2024.10.29	日本微生物生態学会第37回大 会（広島市）	淡水圏に生息する <i>Bacteroidota</i> 門の <i>Sediminibacterium</i> 属細菌による有 機態窒素のアノモニア化	<u>渡邊圭司</u> 、 <u>竹峰秀祐</u> 、 石井裕一、黒川李奈、 須田互

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
78	2024.10.30	第38回全国浄化槽技術研究集会（長崎市）	浄化槽汚泥収集・運搬モデルの構築と濃縮車導入による事業費用節約効果	R. Ke、李玉友、西村修、 <u>見島伊織</u> 、武田文彦、仁木圭三、濱中俊輔
79	2024.10.30	第38回全国浄化槽技術研究集会（長崎市）	小型浄化槽の構造および使用条件と清掃汚泥量の関係	濱中俊輔、武田文彦、山下雅大、仁木圭三、 <u>見島伊織</u> 、李玉友、西村修
80	2024.11. 2	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	亜硝酸型硝化プロセスにおけるFe(II)、Zn(II)添加濃度が菌体収率に及ぼす影響	麻生侑里、山崎宏史、 <u>見島伊織</u> 、井坂和一
81	2024.11. 2	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	一槽型アナモックスプロセスにおける運転操作要因が処理水質とN ₂ O発生量へおよぼす影響	新田朱梨、山崎宏史、 <u>見島伊織</u> 、井坂和一
82	2024.11. 2	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	Mo(VI)が1,4-ジオキサン処理プロセスへ及ぼす影響	萩原大祐、 <u>見島伊織</u> 、池道彦、井坂和一
83	2024.11. 2	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	アナモックス反応槽における残留亜硝酸がN ₂ O発生量へ及ぼす影響	森本実咲、山崎宏史、 <u>見島伊織</u> 、井坂和一
84	2024.11. 2	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	亜硝酸型硝化プロセスにおける塩類濃度変化がN ₂ O発生量と色彩変化に及ぼす影響	間瀬直翔、相沢宏明、山崎宏史、 <u>見島伊織</u> 、井坂和一
85	2024.11. 3	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	化学工場の土壌サンプルを植種源とした 1,4-ジオキサン分解系の獲得とその特性評価	磯尾彩華、 <u>見島伊織</u> 、斎藤弥生、近藤貴志、井坂和一
86	2024.11. 3	日本水処理生物学会第60回大会（姫路市）	クヌギ落葉は淡水二枚貝イシガイの餌供給に貢献するか	田中仁志、西尾正輝、藤林恵、田中大祐、西村修
87	2024.11.15	日本気象学会2024年度秋季大会（つくば市）	地上・衛星観測による日本のエアロゾルの長期変動解析	工藤玲、大河原望、大島長、入江仁士、西澤智明、日暮明子、藤谷雄二、神慶隆、 <u>長谷川就一</u> 、S.-W. Kim、P. Khatri、竹村俊彦、弓本桂也、佐々木駿
88	2024.11.26	第61回環境工学研究フォーラム（新潟市）	微生物燃料電池適用が鉄電解式リン除去型浄化槽の処理性能と保持汚泥性状に与える影響	窪田恵一、 <u>見島伊織</u> 、渡邊智秀
89	2024.11.26	日本地熱学会令和6年東京大会（東京都江戸川区）	バッカー式有効熱伝導率測定のための解析プログラム開発	<u>濱元栄起</u> 、石山高、齋藤稔、山本紘之、諏佐友哉
90	2024.11.26	日本地熱学会令和6年東京大会（東京都江戸川区）	季節ごとの変化特性から見た1 m深地温長期変動、2024年アップデート	松林修、 <u>濱元栄起</u>
91	2024.11.27	第61回環境工学研究フォーラム（新潟市）	下水および河川水中で検出されるトリプトファン様ピークの分子量特性	池田和弘、 <u>竹峰秀祐</u> 、 <u>渡邊圭司</u> 、日下部武敏
92	2024.12. 2 - 3	第7回環境DNA学会つくば大会（つくば市）	環境DNA網羅的解析に基づく河川生息魚種情報の提供と水環境・生物多様性保全への展開	木持謙、田中仁志、 <u>渡邊圭司</u> 、埼玉県環境部水環境課
93	2024.12.14	第10回山岳科学学術集会・第29回「野生生物と社会」学会合同大会（静岡大学）	市民講座受講者のオオカミとその再導入に対する態度と意識の変化	<u>角田裕志</u> 、桜井良

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
94	2025. 2. 5	第46回全国都市清掃研究・事例発表会（富山市）	事業系可燃ごみ削減へ向けた方策（その2）～ヒアリングと現場視察から見えた課題～	<u>川嵯幹生</u> 、 <u>磯部友護</u> 、 <u>長森正尚</u> 、 <u>茂木守</u>
95	2025. 3.16	日本生態学会第72回全国大会（札幌市）	景観構造と人由来の餌資源利用はニホンジカのストレスに影響するの か？	畠本樹、 <u>角田裕志</u> 、 <u>秦彩夏</u>
96	2025. 3.17	日本生態学会第72回全国大会（札幌市）	湛水開始時期は水田地帯のカエル類の分布に影響するか？衛星画像を用いた生息適地推定	<u>安野翔</u> 、 <u>藤田宏之</u> 、 <u>大和広明</u>
97	2025. 3.17	日本生態学会第72回全国大会（札幌市）	田植え時期の違いに対する生物の応答：水生動物、カエル、サギを対象に	<u>安野翔</u>
98	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	水生生物カードゲームを通じた河川体験学習の深化	<u>田中仁志</u> 、 <u>木持謙</u> 、 <u>大塚佳臣</u> 、 <u>山田一裕</u>
99	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	水生生物情報提供が市民の水辺価値評価にもたらす影響	<u>五十嵐佳月</u> 、 <u>大塚佳臣</u> 、 <u>木持謙</u>
100	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	千葉県手賀沼の化学的有機物分解特性と炭素循環	<u>木持謙</u> 、 <u>時枝隆之</u>
101	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	東京湾沿岸域におけるデジタルツインに対する住民意識のプレアンケート分析	<u>見島伊織</u> 、 <u>古川恵太</u> 、 <u>石井裕一</u> 、 <u>岡田知也</u> 、 <u>菊地淳</u> 、 <u>嘉藤亮</u> 、 <u>東博紀</u>
102	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	Cu(II)とFe(II)が脱窒性能およびN ₂ O発生量へ及ぼす影響	<u>相田怜夢</u> 、 <u>山崎宏史</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>井坂和一</u>
103	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	Fe(II)とMo(VI)添加による1,4-ジオキサン分解の活性化および阻害効果	<u>阿久津峻</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>池道彦</u> 、 <u>井坂和一</u>
104	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	脱窒プロセスにおける有機物源とC/N比がN ₂ O発生量に及ぼす影響	<u>雨宮和帆</u> 、 <u>山崎宏史</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>井坂和一</u>
105	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	Fe(II)とZn(II)が同時硝化・アナモックス反応系へ及ぼす影響とN ₂ O発生量の変化	<u>佐々木俊輔</u> 、 <u>山崎宏史</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>井坂和一</u>
106	2025. 3.17	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	アナモックスプロセスにおけるN ₂ O発生源の推定	<u>森本実咲</u> 、 <u>山崎宏史</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>井坂和一</u>
107	2025. 3.18	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	EEMs中のトリプトファン様物質ピーク定量に対するPARAFAC解析の必要性評価	<u>池田和弘</u> 、 <u>日下部武敏</u>
108	2025. 3.18	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	一槽型アナモックス法におけるMo(VI)がアナモックスと硝化活性に及ぼす影響	<u>新田朱梨</u> 、 <u>北原央士</u> 、 <u>斎藤弥生</u> 、 <u>近藤貴志</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>井坂和一</u>
109	2025. 3.18	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	大阪湾内の底質による酸素消費速度の水平分布及び季節変動	<u>近藤健</u> 、 <u>森育子</u> 、 <u>秋山諭</u> 、 <u>矢吹芳教</u> 、 <u>石井裕一</u> 、 <u>見島伊織</u>
110	2025. 3.18	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	トンネル掘削ズリに起因する土壌汚染リスクの検討	<u>石山高</u> 、 <u>渡邊圭司</u> 、 <u>柿本貴志</u>
111	2025. 3.18	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	水質事故対応時における関係者との迅速な情報共有のためのGISアプリの作成と運用	<u>柿本貴志</u> 、 <u>飯島秀明</u> 、 <u>鳥羽瑞穂</u>
112	2025. 3.19	第59回日本水環境学会年会（北海道大学）	亜硝酸型硝化プロセスにおけるN ₂ O発生量抑制に向けた微量金属添加条件の検討	<u>麻生侑里</u> 、 <u>斎藤弥生</u> 、 <u>近藤貴志</u> 、 <u>見島伊織</u> 、 <u>山崎宏史</u> 、 <u>井坂和一</u>

	期 日	学 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
113	2025. 3.19	第59回日本水環境学会年会 (北海道大学)	加熱担体法による亜硝酸酸化活性の抑制と微生物叢の評価	恵美須屋彩瑛、 山崎宏史、 <u>見島伊織</u> 、 斎藤弥生、近藤貴志、 井坂和一
114	2025. 3.19	第59回日本水環境学会年会 (北海道大学)	亜硝酸酸化活性を活性化する微量元素の特定と代謝経路との関連性	濱邊亮、斎藤弥生、 近藤貴志、 <u>見島伊織</u> 、 井坂和一
115	2025. 3.27	日本薬学会第145年会 (福岡市)	生物中ホウ素の検出を目的とした蛍光プローブの開発	高田慎也、藤野毅、 <u>見島伊織</u> 、G. Dehini、 原史子、堀山志朱代、 天満敬、萩森政頼

(注) 当センターの職員には下線を付した。

5.4.5 その他の研究発表

(121件)

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
1	2024. 5.31	廃棄物資源循環学会 令和6年度春の研究討論会埋立処理処分研究部会 (川崎市)	『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年改訂版の初稿について 「3.1 生活環境保全基準」	<u>長森正尚</u>
2	2024. 5.31	廃棄物資源循環学会 令和6年度春の研究討論会埋立処理処分研究部会 (川崎市)	『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年改訂版の初稿について「3.3 ガス発生非増加基準」	<u>長森正尚</u>
3	2024. 7. 2	2024年度日本環境化学会 功績賞学術賞受賞講演 (広島市)	機器分析とフィールド調査を基軸に微量有機汚染物質の存在実態を探る：周囲に支えられた研究半生 (第33回環境化学学術賞受賞)	<u>堀井勇一</u>
4	2024. 7. 2	第3回環境化学物質合同大会 ランチョンセミナー (広島市)	「PFAS標準品専用の高気密瓶開発」	<u>高沢麻里</u>
5	2024. 7. 2-5	第3回環境化学物質合同大会 企業展示 (広島市)	環境水中に含有されるPFASのオンラインSPE-LC-MS/MS手法構築に向けた検討	<u>高沢麻里</u> 、 <u>竹峰秀祐</u> 、 佐々野僚一、亀山浩
6	2024. 7. 2-5	第3回環境化学物質合同大会 企業展示 (広島市)	PFAS標準品専用の高気密瓶開発	<u>高沢麻里</u> 、 <u>竹峰秀祐</u> 、 木村要
7	2024. 7. 4	第3回環境化学物質合同大会 ランチョンセミナー (広島市)	窒素キャリアガスを用いたGC/APGC-MS/MSとダイオキシン類の測定への応用	<u>竹峰秀祐</u> 、小寺和樹
8	2024. 9. 5	JASIS2024 新技術説明会 (千葉市)	オンライン固相自動抽出装置を用いたPFAS自動分析	<u>竹峰秀祐</u>
9	2024. 9.11	第35回廃棄物資源循環学会研究発表会 企画セッション (つくば市)	『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年改訂版初稿による廃止検討事例について 「改訂版最終稿に向けた具体的な検討事例について」	<u>長森正尚</u> 、吉田英樹、 石垣智基
10	2024.10. 1	The 44th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, Lunch Session by Waters (Singapore)	APGC-MS/MS using nitrogen carrier gas: Alternative GC-MS/MS method for the determination of dioxins in environmental samples	<u>S. Takemine</u>
11	2024.10. 3	荒川下流河川事務所との意見交換会 (東京都北区)	埼玉県環境科学国際センター (CESS) のGISへの取り組み	<u>柿本貴志</u> 、 <u>嶋田知英</u> 、 <u>濱元栄起</u> 、 <u>大和広明</u>

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
12	2024.10. 7	令和6年度 全国環境研協議会 関東甲信静支部水質専門部会 (川崎市)	川の国埼玉における河川生態系保全 を目指す環境学習とアウトリーチ活 動	<u>田中仁志</u>
13	2024.10.18	第45回日本作業環境測定協会 学術大会（北九州市）	埼玉県における災害時石綿モニタリ ングに関する協定事例と成果	野口裕司、小ノ澤忠義、 <u>佐坂公規</u> 、 <u>村田浩太郎</u>
14	2024.10.22	Seminar for Japan-Chile Joint Research on Micro (Nano) Plastics in Aerosols Circulating through the Atmosphere, Land and Sea (Valparaíso, Chile)	Ice-nucleating particle concentration and bacterial community composition in the atmosphere at the summit of Mount Fuji	<u>K. Murata</u>
15	2024.10.22	Seminar for Japan-Chile Joint Research on Micro (Nano) Plastics in Aerosols Circulating through the Atmosphere, Land and Sea (Valparaíso, Chile)	Resource circulation strategies and practices for plastic waste in Japan	<u>Y. Isobe</u>
16	2024.10.22	Seminar for Japan-Chile Joint Research on Micro (Nano) Plastics in Aerosols Circulating through the Atmosphere, Land and Sea (Valparaíso, Chile)	Seminar objectives and importance of elucidating the behavior of micro (nano) plastics in aerosols	<u>H. Tanaka</u>
17	2024.11. 6	地震研究所共同利用研究集会 「沈み込み帯における温度構 造推定の高精度化」 (東京大学)	陸域における地下温度測定とその解 析	<u>濱元栄起</u> 、 <u>山野誠</u>
18	2024.11. 8	令和6年度全国環境研協議会 関東甲信静支部大気専門部会 (横浜市)	デジタルPCRを用いた大気環境中細 菌の定量法の検討	<u>村田浩太郎</u> 、 <u>渡邊圭司</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 <u>長谷川就一</u> 、 <u>松本利恵</u> 、 <u>佐坂公規</u> 、 <u>米持真一</u>
19	2024.11. 9	第7回 東北野生動物管理研究 交流会 in やまがた（山形市）	「捕食者としてのヒト」に対するニ ホンジカの行動反応と管理への応用 可能性	<u>角田裕志</u>
20	2024.11.12	人文機構・広領域研究「地域文 化」・地球研ユニット全体会議 (オンライン開催)	令和6年能登半島地震後の七尾市に おける市民生活と公的給水支援の調 査	<u>柿本貴志</u>
21	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポス ター発表会 (環境科学国際センター)	ドローンを活用して上空の大気汚染 を解明する～光化学スモッグの解明 のため未知の領域に挑戦～	<u>米持真一</u>
22	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポス ター発表会 (環境科学国際センター)	インターネットにつながる暑さ指数 計の開発及び情報発信による熱中症 対策の社会実装の試行	<u>大和広明</u>
23	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポス ター発表会 (環境科学国際センター)	埼玉県における気候変動適応策の社 会実装	<u>嶋田知英</u>
24	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポス ター発表会 (環境科学国際センター)	人為起源の二酸化炭素濃度への影響 を解析！～二酸化炭素濃度と大気汚 染物質濃度との関係について～	<u>武藤洋介</u>

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
25	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地球温暖化に大きく影響を及ぼしている代替フロン類 (HFCs) の大気観測	<u>市川有二郎</u>
26	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	『夏の大气を詳しく調査！ ―光化学オキシダント発生の原因を探る揮発性有機化合物の観測』	<u>佐坂公規</u>
27	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	自動車からアンモニアが排出されるって本当!?～幹線道路周辺でアンモニア濃度を測定しました～	<u>松本利恵</u>
28	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	資源植物を活用した収益型ファイトレメディエーション～（重金属汚染土壌の修復技術）の確立～	<u>王効挙</u>
29	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	光化学オキシダントは植物に様々な悪影響を及ぼす！～水稻の収穫量などに及ぼす影響に着目して～	<u>米倉哲志</u>
30	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	市民の目撃記録による特定外来生物マスカラットの分布状況の把握	<u>角田裕志</u>
31	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	田植え時期が変わると田んぼの生き物の顔ぶれも変わる！？	<u>安野翔</u>
32	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	「ごみの安定化」を調べる！～埋立地ガス評価方法の改訂～	<u>長森正尚</u>
33	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	シール(ラベル)の台紙はリサイクルできますか？	<u>川嵯幹生</u>
34	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	最終処分場の新たな管理を目指した実務者・管理者と研究者の連携	<u>磯部友護</u>
35	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	紙中ダイオキシン類の推移	<u>蓑毛康太郎</u>
36	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	有害化学物質のスクリーニング分析法の開発	<u>竹峰秀祐</u>
37	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	原子力発電所事故10年後における生態圏での環境放射能の現況及び変遷	<u>落合祐介</u>
38	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	川の学習イベント「生き物と水の汚れの関係を知って、川を守ろう、親しもう」	<u>田中仁志</u>
39	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	河川の汚濁をより早く検知・評価する手法を開発する	<u>池田和弘</u>
40	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	水の中の微生物は何をしているのか～微生物は地球を救う！（のか？）～	<u>渡邊圭司</u>

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
41	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地域の水資源を断水時の生活用水として活用する一災害による断水時にも必要な水を確保できる社会の構築に向けてー	<u>柿本貴志</u>
42	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	『逆転の発想！ 産業廃棄物を有用資源に！！』ーホタテ貝の貝殻片を用いた低コスト土壌汚染対策技術の開発ー	<u>石山高</u>
43	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	『脱炭素技術の切り札！地中熱ヒートポンプ！』ー埼玉県での地中熱ヒートポンプの効果を科学的に調べるー	<u>濱元栄起</u>
44	2024.11.14	「研究所公開」研究成果ポスター発表会 (環境科学国際センター)	地下水に含まれる“PFOS”“PFOA”の濃度を知る！	<u>高沢麻里</u>
45	2024.11.14	第51回環境保全・公害防止研究発表会（櫃原市）	一般廃棄物最終処分場のガス抜き管内部に滞留した水と浸出水を用いた安定化評価事例	田中宏和、古賀敬興、矢吹芳教、井上豪、中越章博、石川翔一、 <u>長森正尚</u> 、成岡朋弘、石垣智基、遠藤和人、山田正人
46	2024.11.15	全国大気汚染防止連絡協議会第69回全国大会（さいたま市）	ドローンを活用した光化学大気汚染の解明	<u>米持真一</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、山本祐志
47	2024.11.15	全国大気汚染防止連絡協議会第69回全国大会（さいたま市）	地球温暖化に大きく影響を及ぼしている代替フロン類（HFCs）の大気観測	<u>市川有二郎</u>
48	2024.11.15	全国大気汚染防止連絡協議会第69回全国大会（さいたま市）	行政職員を対象とした石綿含有建材の目視確認研修について	<u>川嵯幹生</u>
49	2024.11.15	第51回環境保全・公害防止研究発表会（櫃原市）	多様な水環境の管理に対応した生物応答の活用	<u>田中仁志</u> 、山本裕史
50	2024.11.15	第51回環境保全・公害防止研究発表会（櫃原市）	外来付着珪藻 <i>Cymbella janischii</i> の都内河川での繁茂状況と他機関との連携による広域調査への展開	石井裕一、内多美穂子、安藤晴夫、和波一夫、下ヶ橋雅樹、長谷川裕弥、鈴木元治、 <u>見島伊織</u> 、矢吹芳教、濱脇亮次、西嶋渉
51	2024.11.20	第27回自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会（小田原市）	埼玉県における県民参加を主体とした特定外来生物“クビアカツヤカミキリ”被害調査	<u>三輪誠</u>
52	2024.11.22	中国山東省物化探勘査院代表团来セ訪問特別講演会 (環境科学国際センター)	令和6年能登半島地震時による断水時の公助と共助	<u>柿本貴志</u>
53	2024.12. 4	The EANET webinar workshop for emission inventory of VOCs and its application for policy consideration (Online)	Control measures of NMVOCs: Case study of Saitama Prefecture of Japan	<u>S. Yonemochi</u>
54	2024.12.23	令和6年度分析イノベーション交流会、展示交流会 (八王子市)	環境水中に含有されるPFASのオンラインSPE-LC-MS/MS手法構築に向けた検討	<u>高沢麻里</u> 、 <u>竹峰秀祐</u> 、佐々野僚一、亀山浩

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
55	2025. 1. 20	2024 Special seminar on the IDEC Institute (Hiroshima, Japan)	Studies on ice-nucleating particles and bioaerosols at the summit of Mt. Fuji	<u>K. Murata</u>
56	2025. 2. 1	第18回伊豆沼・内沼研究集会 (栗原市))	湛水開始時期を指標とした水田地帯におけるカエル類の生息適地推定	<u>安野翔、藤田宏之、大和広明</u>
57	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	ドローンを活用して上空の大気汚染を解明する～光化学スモッグの解明のため未知の領域に挑戦～	<u>米持真一</u>
58	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	インターネットにつながる暑さ指数計の開発及び情報発信による熱中症対策の社会実装の試行	<u>大和広明</u>
59	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	埼玉県における気候変動適応策の社会実装	<u>嶋田知英</u>
60	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	人為起源の二酸化炭素濃度への影響を解析！～二酸化炭素濃度と大気汚染物質濃度との関係について～	<u>武藤洋介</u>
61	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	地球温暖化に大きく影響を及ぼしている代替フロン類 (HFCs) の大気観測	<u>市川有二郎</u>
62	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	『夏の空気を詳しく調査！ ー光化学オキシダント発生の原因を探る揮発性有機化合物の観測』	<u>佐坂公規</u>
63	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	『自動車からアンモニアが排出されるって本当!?』ー幹線道路周辺でアンモニア濃度を測定しましたー	<u>松本利恵</u>
64	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	資源植物を活用した収益型ファイトレメディエーション～ (重金属汚染土壌の修復技術) の確立～	<u>王効挙</u>
65	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	光化学オキシダントは植物に様々な悪影響を及ぼす！～水稻の収穫量などに及ぼす影響に着目して～	<u>米倉哲志</u>
66	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	市民の目撃記録による特定外来生物マスカラットの分布状況の把握	<u>角田裕志</u>
67	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	田植え時期が変わると田んぼの生き物の顔ぶれも変わる！？	<u>安野翔</u>
68	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	「ごみの安定化」を調べる！～埋立地ガス評価方法の改訂～	<u>長森正尚</u>
69	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	シール(ラベル)の台紙はリサイクルできますか？	<u>川嵯幹生</u>
70	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	最終処分場の新たな管理を目指した実務者・管理者と研究者の連携	<u>磯部友護</u>
71	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会 (さいたま市)	紙中ダイオキシン類の推移	<u>蓑毛康太郎</u>

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
72	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	有害化学物質のスクリーニング分析法の開発	<u>竹峰秀祐</u>
73	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	原子力発電所事故10年後における生態圏での環境放射能の現況及び変遷	<u>落合祐介</u>
74	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	川の学習イベント「生き物と水の汚れの関係を知って、川を守ろう、親しもう」	<u>田中仁志</u>
75	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	河川の汚濁をより早く検知・評価する手法を開発する	<u>池田和弘</u>
76	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	水の中の微生物は何をしているのか～微生物は地球を救う！（のか？）～	<u>渡邊圭司</u>
77	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	地域の水資源を断水時の生活用水として活用する一災害による断水時にも必要な水を確保できる社会の構築に向けて一	<u>柿本貴志</u>
78	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	『逆転の発想！産業廃棄物を有用資源に！！』一ホタテ貝の貝殻片を用いた低コスト土壌汚染対策技術の開発一	<u>石山高</u>
79	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	『脱炭素技術の切り札！地中熱ヒートポンプ！』一埼玉県での地中熱ヒートポンプの効果を科学的に調べる一	<u>濱元栄起</u>
80	2025. 2. 5	「埼玉県環境科学国際センター講演会」研究成果ポスター発表会（さいたま市）	地下水に含まれる“PFOS” “PFOA”の濃度を知る！	<u>高沢麻里</u>
81	2025. 2. 8	川の再生交流会2025（さいたま市）	埼玉県環境科学国際センター水環境担当の活動紹介	<u>田中仁志</u>
82	2025. 2. 8	川の再生交流会2025（さいたま市）	令和6年度河川基金助成事業「水生生物カードゲームで深める河川体験学習の普及」	<u>田中仁志</u>
83	2025. 2. 8	川の再生交流会2025（さいたま市）	沿岸環境・生態系デジタルツインに関するプロジェクト研究の紹介	<u>見島伊織</u>
84	2025. 2. 8	川の再生交流会2025（さいたま市）	県内河川における異常水質事故の発生状況	<u>柿本貴志</u>
85	2025. 2.19	第40回全国環境研究所交流シンポジウム（つくば市）	埼玉県における一般廃棄物最終処分場管理者との連携構築	<u>磯部友護</u> 、 <u>長谷隆仁</u> 、 <u>石森洋行</u> 、 <u>長森正尚</u>
86	2025. 2.19	第40回全国環境研究所交流シンポジウム（つくば市）	最終処分場における事業者と研究者の連携によるデータの有効活用	<u>石森洋行</u> 、 <u>磯部友護</u> 、 <u>石垣智基</u> 、 <u>山田正人</u>
87	2025. 2.21 -3/7	東洋大学工業技術研究所研究発表会（オンライン）	埼玉県における湿性沈着の物理化学特性の調査	<u>篠沢颯真</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>反町篤行</u>
88	2025. 2.21 -3/7	東洋大学工業技術研究所研究発表会（オンライン）	都市郊外の森林における大気汚染物質の乾性沈着量調査	<u>塩ノ谷拓真</u> 、 <u>西野友翔</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 <u>松田和秀</u> 、 <u>反町篤行</u>
89	2025. 2.21 -3/7	東洋大学工業技術研究所研究発表会（オンライン）	オゾンの乾性沈着フラックス観測のための濃度測定法の検討	<u>川浦綾夏</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>反町篤行</u>

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
90	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	ドローンを活用して上空の大気汚染 を解明する～光化学スモッグの解明 のため未知の領域に挑戦～	<u>米持真一</u>
91	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	インターネットにつながる暑さ指数 計の開発及び情報発信による熱中症 対策の社会実装の試行	<u>大和広明</u>
92	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	埼玉県における気候変動適応策の社 会実装	<u>嶋田知英</u>
93	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	人為起源の二酸化炭素濃度への影響 を解析！～二酸化炭素濃度と大気汚 染物質濃度との関係について～	<u>武藤洋介</u>
94	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	地球温暖化に大きく影響を及ぼして いる代替フロン類（HFCs）の大気観 測	<u>市川有二郎</u>
95	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	『夏の大気を詳しく調査！ ー光化 学オキシダント発生の原因を探る揮 発性有機化合物の観測』	<u>佐坂公規</u>
96	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	『自動車からアンモニアが排出され るって本当!?』ー幹線道路周辺でア ンモニア濃度を測定しましたー	<u>松本利恵</u>
97	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	資源植物を活用した収益型ファイト レメディエーション～（重金属汚染 土壌の修復技術）の確立～	<u>王効挙</u>
98	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	光化学オキシダントは植物に様々な 悪影響を及ぼす！～水稻の収穫量な どに及ぼす影響に着目して～	<u>米倉哲志</u>
99	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	市民の目撃記録による特定外来生物 マスカラットの分布状況の把握	<u>角田裕志</u>
100	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	田植え時期が変わると田んぼの生き 物の顔ぶれも変わる！？	<u>安野翔</u>
101	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	「ごみの安定化」を調べる！～埋立 地ガス評価方法の改訂～	<u>長森正尚</u>
102	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	シール(ラベル)の台紙はリサイクル できますか？	<u>川嵯幹生</u>
103	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	最終処分場の新たな管理を目指した 実務者・管理者と研究者の連携	<u>磯部友護</u>
104	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	紙中ダイオキシン類の推移	<u>蓑毛康太郎</u>
105	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	有害化学物質のスクリーニング分析 法の開発	<u>竹峰秀祐</u>
106	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	原子力発電所事故10年後における生 態圏での環境放射能の現況及び変遷	<u>落合祐介</u>
107	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	川の学習イベント「生き物と水の汚 れの関係を知って、川を守ろう、親 しもう」	<u>田中仁志</u>
108	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	河川の汚濁をより早く検知・評価す る手法を開発する	<u>池田和弘</u>
109	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	水の中の微生物は何をしているのか ～微生物は地球を救う！（のか？） ～	<u>渡邊圭司</u>

	期 日	発 表 会 の 名 称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者
110	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	地域の水資源を断水時の生活用水と して活用する一災害による断水時 にも必要な水を確保できる社会の構築 に向けてー	<u>柿本貴志</u>
111	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	『逆転の発想！産業廃棄物を有用資 源に！！』ーホタテ貝の貝殻片を用 いた低コスト土壌汚染対策技術の開 発ー	<u>石山高</u>
112	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	『脱炭素技術の切り札！地中熱ヒー トポンプ！』ー埼玉県での地中熱ヒ ートポンプの効果を科学的に調べる ー	<u>濱元栄起</u>
113	2025. 2.22	「加須フェス2025」研究成果 ポスター発表会（加須市）	地下水に含まれる“PFOS”“PFOA” の濃度を知る！	<u>高沢麻里</u>
114	2025. 2.22	第16回バイオエアロゾルシン ポジウム（近畿大学）	2024年夏季の富士山頂における微 生物粒子個数濃度の連続測定	<u>渡辺幸一</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>加藤俊吾</u>
115	2025. 3. 1	第21回BNCシンポジウム （東洋大学）	大気ー植生間における大気エアロゾ ルの沈着速度の実測値とモデル値の 比較	<u>増田裕季</u> 、 <u>吉田雄仁</u> 、 <u>北原一樹</u> 、 <u>佐藤麻依</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 <u>松田和秀</u> 、 <u>反町篤行</u>
116	2025. 3. 1	第21回BNCシンポジウム （東洋大学）	林床からのアンモニア放出・沈着メ カニズムの調査	<u>佐々木寛大</u> 、 <u>増田裕季</u> 、 <u>加藤拓真</u> 、 <u>坂本祐誠</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>市川有二郎</u> 、 <u>反町篤行</u>
117	2025. 3. 9	第18回成果報告会ー富士山 測候所で行った活動の成果ー （東京都千代田区）	富士山頂の大気を漂う細菌たちを調 べる	<u>村田浩太郎</u> 、 <u>渡辺幸一</u> 、 <u>鴨川仁</u> 、 <u>大河内博</u> 、 <u>米持真一</u>
118	2025. 3. 9	第18回成果報告会ー富士山 測候所で行った活動の成果ー （東京都千代田区）	2024年夏期の富士山頂における微 生物粒子個数濃度の測定	<u>渡辺幸一</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>加藤俊吾</u>
119	2025. 3. 9	第18回成果報告会ー富士山 測候所で行った活動の成果ー （東京都千代田区）	大気中に浮遊している粒子の特徴： 磁性について	<u>上野千嘉</u> 、 <u>米持真一</u> 、 <u>村田浩太郎</u> 、 <u>大河内博</u> 、 <u>反町篤行</u>
120	2025. 3. 9	第18回成果報告会ー富士山 測候所で行った活動の成果ー （東京都千代田区）	2024年夏期の雷観測～次世代型観 測を行うための準備報告	<u>鴨川仁</u> 、 <u>鈴木智幸</u> 、 <u>D. Smith</u> 、 <u>安本勝</u> 、 <u>村田浩太郎</u>
121	2025. 3.21	第124回プラズマ分光分析研 究会（ハイブリッド開催）	富士山頂で採取したPM2.5中無機元 素成分を用いた越境大気汚染の解明	<u>米持真一</u>

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.4.6 報告書

（5件）

	報 告 書 名	発 行 者	執 筆 担 当	執 筆 者	発行年
1	令和5年度二酸化炭素濃度観測結 果	埼玉県環境部温暖化対 策課 環境科学国際センター	全章	<u>武藤洋介</u>	2025

	報 告 書 名	発 行 者	執 筆 担 当	執 筆 者	発行年
2	2024年度埼玉県温室効果ガス排出量算定報告書（2022年度算定値）	埼玉県環境部温暖化対策課 環境科学国際センター	全章	<u>嶋田知英</u> <u>大和広明</u> <u>河野なつ美</u> <u>山上 晃央</u>	2025
3	地球温暖化対策実行計画推進事業 埼玉県温度実態調査報告書（令和5年度）	埼玉県環境部温暖化対策課 環境科学国際センター	全章	<u>大和広明</u>	2025
4	令和5年度微小粒子状物質・光化学オキシダント合同調査報告書 関東甲信静におけるPM2.5のキャラクター化（第16報） 関東甲信静における光化学オキシダントのキャラクター化（第3報） （令和5年度調査結果）	関東地方大気環境対策推進連絡会 微小粒子状物質・光化学オキシダント調査会議	II 光化学オキシダント(Ox)調査 3 年間の光化学オキシダント高濃度発生状況 3.2 高濃度事例解析	<u>長谷川就一</u>	2025
5	都市域の地質地盤図「埼玉県南東部」（説明書）	(国研)産業技術総合研究所 地質調査総合センター	第2章 地質概説 第7章 応用地質	中澤努 米岡佳弥 野々垣進 小松原純子 尾崎正紀 中里裕臣 <u>八戸昭一</u> <u>八戸昭一</u>	2025

（注）当センターの職員には下線を付した。

（注）抄録は、7. 4. 4 報告書抄録 を参照。

5.4.7 書籍

(1件)

	書 籍 名	出 版 社	執 筆 分 担	執 筆 者	発行年
1	廃棄物処理・処分・リサイクルに役立つ数値シミュレーション	近代科学社	第6章 現場管理者との連携による正確な将来予測	<u>磯部友護</u>	2025

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.4.8 センター報

(2件)

	種 別	課 題 名	執 筆 者	掲 載 号
1	総合報告	ストリップングボルタンメトリーによる土壤中重金属類のオンサイト分析法の開発	<u>石山高</u>	第24号、71-86 (2024)
2	資料	令和6年能登半島地震被災地における避難所運営支援業務と在宅避難者の生活用水確保行動調査	<u>柿本貴志</u>	第24号、87-93 (2024)

（注）当センターの職員には下線を付した。

5.5 講師・客員研究員等

5.5.1 大学非常勤講師

(7件)

	期 日	講 義 内 容	講 義 場 所	氏 名
1	2024.5.14	獨協大学非常勤講師「全学総合講座」	獨協大学	植松光夫
2	2024.8.26	創価大学大学院理工学研究科非常勤講師 「特別講義」	創価大学	今井章雄
3	2024年度 前期	早稲田大学創造理工学部非常勤講師 「環境研究の実践と国際協力」	早稲田大学	米持真一
4	2024年度 第4ターム	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授（連携大学院） 「環境分析化学特論」	埼玉大学	大塚宜寿
5	2024年度 第3・4ターム	埼玉大学工学部非常勤講師 「環境保全マネジメント」	埼玉大学	池田和弘 柿本貴志
6	2024年度 第2ターム 第3・4ターム	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授（連携大学院） 「水環境工学特論」 「水環境工学特論」	埼玉大学	見島伊織
7	2024年度 第3ターム	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授（連携大学院） 「地圏環境学特論」	埼玉大学	濱元栄起

5.5.2 客員研究員

(11件)

	相 手 機 関	委 嘱 期 間	氏 名
1	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 7. 3～2025. 3.31	今井章雄
2	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	河野なつ美
3	東京大学先端科学技術研究センター	2024. 4. 1～2025. 3.31	河野なつ美
4	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	長谷川就一
5	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	長森正尚
6	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	川崙幹生
7	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	長谷隆仁
8	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	磯部友護
9	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	堀井勇一
10	国立研究開発法人 国立環境研究所	2024. 4. 1～2025. 3.31	渡邊圭司
11	神奈川県温泉地学研究所	2024. 8. 1～2025. 3.31	石山高

5.5.3 国、地方自治体の委員会等の委員委嘱

(68件)

	委 員 会 等 の 名 称	委 嘱 機 関	委 嘱 期 間	氏 名
1	黄砂問題検討会	環境省水・大気環境局	2024. 8.22～2025. 3.21	植松光夫
2	日本学術会議連携会員	日本学術会議	2023.10. 2～2029. 9.30	植松光夫
3	日本学術会議フューチャー・アース の推進と連携に関する委員会	日本学術会議	2023.10. 2～2026. 9.30	植松光夫
4	日本学術会議地球惑星科学委員会	日本学術会議	2023.12.22～2026. 9.30	植松光夫
5	日本学術会議地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会	日本学術会議	2023.12.22～2026. 9.30	植松光夫
6	日本学術会議環境学委員会・地球惑 星科学委員会合同FE・WCRP合同 分科会	日本学術会議	2023.10.29～2026. 9.30	植松光夫
7	日本学術会議地球惑星科学委員会 SCOR分科会	日本学術会議	2023.10. 1～2026. 9.30	植松光夫

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
8	日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会IGAC小委員会	日本学術会議	2024. 1.25～2026. 9.30	植松光夫
9	日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同FE・WCRP合同分科会SOLAS小委員会	日本学術会議	2023.12.22～2026. 9.30	植松光夫
10	日本学術会議地球惑星科学委員会SCOR分科会SIMSEA小委員会	日本学術会議	2024. 1.25～2026. 9.30	植松光夫
11	環境研究推進委員会	(独)環境再生保全機構	2020. 4.21～2026. 3.31	植松光夫
12	環境研究推進委員会(統合部会)	(独)環境再生保全機構	2020. 4.21～2026. 3.31	植松光夫
13	環境研究推進委員会(気候変動部会)	(独)環境再生保全機構	2020. 4.21～2026. 3.31	植松光夫
14	地球環境保全試験研究費評価委員会	環境省地球環境局	2024. 4.26～2025. 3.31	植松光夫
15	環境研究推進委員会(S-18戦略研究プロジェクト専門部会)	(独)環境再生保全機構	2023. 5.25～2026. 3.31	植松光夫
16	環境研究推進委員会(S-20戦略研究プロジェクト専門部会)	(独)環境再生保全機構	2023. 5.25～2026. 3.31	植松光夫
17	環境研究推進委員会(S-22戦略研究プロジェクト専門部会)	(独)環境再生保全機構	2023. 5.25～2026. 3.31	植松光夫
18	加須市病院を核とした加須駅周辺の新たなまちづくり構想推進懇話会	加須市	2022. 9.30～2024. 9.29	酒井辰夫
19	朝霞和光資源循環組合ごみ広域処理施設建設検討委員会	朝霞和光資源循環組合	2022.11.14～2025. 2. 3	酒井辰夫
20	行田羽生資源環境組合新ごみ処理施設整備運営事業者選定委員会	行田羽生資源環境組合	2023. 7.21～2024. 9.27	酒井辰夫
21	鴻巣市環境審議会	鴻巣市	2024. 4. 1～2025.10.26	今井章雄
22	さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市	2024. 5.20～2025. 7.31	今井章雄
23	琵琶湖における水質管理手法検討会	環境省水・大気環境局	2024.6.24～2025.3.17	今井章雄
24	越谷市まちの整備に関する審議会	越谷市	2023.10. 1～2025. 9.30	八戸昭一
25	春日部市環境審議会	春日部市	2022. 5. 1～2024. 4.30 2024. 5. 1～2026. 4.30	八戸昭一
26	加須市環境審議会	加須市	2024.10.10～2026.10. 9	八戸昭一
27	さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市	2023. 8. 1～2025. 7.31	茂木守
28	久喜市環境審議会	久喜市	2023. 3.23～2025. 3.22 2025. 3.24～2027. 3.23	三輪誠
29	令和6年度環境省環境技術実証事業環境測定技術領域技術実証検討委員	環境省大臣官房総合政策課 環境研究技術室	2024. 6.18～2025. 3.31	米持真一
30	蕨市環境審議会	蕨市	2024.11. 1～2026.10.31	大塚宜寿
31	科学技術・学術審議会地球観測推進部会(第10期)	文部科学省研究開発局	2023. 7.10～2025. 7. 9	嶋田知英
32	行田市環境審議会	行田市	2022. 9.22～2024. 9.21 2024.12.12～2026.12.21	嶋田知英
33	越谷市環境審議会	越谷市	2023. 7. 1～2025. 6.30	嶋田知英

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
34	中川のサギ類コロニー保全対策検討有識者会議	国土交通省江戸川河川事務所	2016. 1.25～	嶋田知英
35	黒浜貝塚保存活用委員会	蓮田市教育委員会	2024. 3.27～2025.11.30	嶋田知英
36	入間市環境審議会	入間市	2023.10. 1～2025. 9.30	嶋田知英
37	幸手市環境審議会	幸手市	2024. 6. 7～2026. 6. 6	嶋田知英
38	桶川市環境基本計画協議会	桶川市	2024. 5.29～2025.3.31	嶋田知英
39	鶴ヶ島市環境審議会	鶴ヶ島市	2024. 7. 1～2026. 6.30	大和広明
40	加須市ゼロカーボン推進協議会	加須市	2024.11. 7～2026.11. 6	大和広明
41	BRIDGE「産官学連携による熱中症リスク低減のための先端的な暑さ指数計測技術の社会実装」に係る研究班会議	(国研)国立環境研究所	2024.10. 8～2025. 3.31	大和広明
42	2024年度大気モニタリングデータ解析ワーキンググループ	環境省水・大気環境局	2025. 1. 9～2025. 3.31	松本利恵
43	国内データ検証グループ	環境省水・大気環境局	2024.12.19～2025. 3.31	松本利恵
44	川口市廃棄物処理施設専門委員会	川口市	2024.10.23～2026.10.22	松本利恵
45	中央環境審議会大気・騒音振動部会 有害大気汚染物質健康リスク評価等専門委員会	環境省水・大気環境局	2017.10.25～	長谷川就一
46	微小粒子状物質等疫学調査実施班	環境省水・大気環境局	2024. 5.30～2025. 3.31	長谷川就一
47	光化学オキシダント植物影響評価検討会	環境省水・大気環境局	2024. 4.16～2025. 3.21	米倉哲志
48	光化学オキシダントの植物影響に係る専門家ヒアリング	環境省水・大気環境局	2024. 8. 8～2025. 3.21	米倉哲志
49	戸田ヶ原自然再生推進連絡会議	戸田市	2024.4.1～2025.3.31	米倉哲志
50	春日部市ごみ減量化・資源化等推進審議会	春日部市	2022. 5. 1～2024. 4.30 2024. 5. 1～2026. 4.30	長森正尚
51	一般廃棄物処理基本計画等策定委員会	蕨戸田衛生センター組合	2023. 7. 4～2025. 3.31	長森正尚
52	越谷市廃棄物減量等推進審議会	越谷市	2023.11.30～2025.11.29	長森正尚
53	大里広域市町村圏組合新ごみ処理施設整備検討委員会	大里広域市町村圏組合	2022. 5.16～2025. 3.31	川嵯幹生
54	新たなごみ処理施設等建設検討委員会	埼玉中部環境保全組合	2022. 7.20～2025 1.16	川嵯幹生
55	上尾伊奈資源循環組合ごみ広域処理施設建設検討委員会	上尾伊奈資源循環組合	2024. 5.31～2026. 3.31	川嵯幹生
56	環境研究総合推進費(3G-2201)「ごみの排出・収集時における感染防止対策に関する研究」アドバイザーボード	(国研)国立環境研究所	2021. 5.26～2025. 3.31	川嵯幹生
57	川越市廃棄物処理施設専門委員会	川越市	2022. 8. 1～2024. 7.31	鈴木和将
58	中央環境審議会循環型社会部会 廃棄物処理基準等専門委員会	環境再生・資源循環局	2024. 7.16～2025. 3.31	磯部友護
59	山梨県環境整備センター（明野処分場）における水質予測等調査検討委員会	山梨県 環境・エネルギー部	2024. 7.30～2025. 3.24	磯部友護
60	東松山市新ごみ処理施設検討委員会	東松山市	2024. 4. 1～2026. 3.31	磯部友護

	委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
61	環境研究総合推進費(3G-2201)「環境中PFASの包括的評価を目指した総PFASスクリーニング測定技術の開発」アドバイザリーボード	(国研)産業技術総合研究所	2024. 4. 1～2027. 3.31	堀井勇一
62	令和6年度化学物質環境実態調査結果精査等検討会	環境省大臣官房環境保健部	2024. 5.28～2025. 3.31	堀井勇一
63	ISO/TC147国際標準化対応委員会及びISO/TC147/SC国内審議委員会	経済産業省イノベーション・環境局	2024. 5.28～2025. 3.31	堀井勇一
64	化学物質環境実態調査分析法開発等検討会議系統別部会（第二部会）	環境省大臣官房環境保健部	2024.12. 9～2025. 3.28	竹峰秀祐
65	化学物質環境実態調査スクリーニング分析法等検討会	環境省大臣官房環境保健部	2024.12. 9～2025. 3.28	竹峰秀祐
66	令和6年度包括的計測手法国際標準化調査研究会	経済産業省イノベーション・環境局	2024. 9.13～2025. 3.28	竹峰秀祐
67	NEDO技術委員（研究評価委員会「再生可能エネルギー熱利用にかかるコスト削減技術開発」（終了時評価）分科会）	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	2024. 4.25～2026. 3.31	濱元栄起
68	災害時における地下水等活用推進に向けた有識者会議	内閣官房水循環政策本部	2024.7.30～2025.3.31	柿本貴志

5.5.4 研修会・講演会等の講師

(145件)

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
1	2024. 4. 6	SDGsまちづくりひろば in Shiki 志木市SDGsセミナー「地球温暖化（影響と対策）」	志木市	嶋田知英
2	2024. 4.17	第1回CESS国際セミナー（CESS-山西農業大学）「CESSの国際連携及び山西農業大学との共同研究」	環境科学国際センター	王効挙
3	2024. 4.24	中央環境管理事務所 職員研修会「ルーペを用いて石綿含有建材を判別してみよう」	さいたま市	川寄幹生
4	2024. 5.13	加須市退職校長会 総会・講演会「富士山頂で大気を調べる」	加須市	村田浩太郎
5	2024. 5.15	埼玉県健康長寿課 熱中症アンバサダー研修「埼玉県内における熱中症の発症リスクの地域性と暑さ指数の日変化パターン」	オンライン開催	大和広明
6	2024. 5.17	令和6年度埼玉県市町村騒音・振動・悪臭担当職員研修会「振動防止技術」	オンライン開催	濱元栄起
7	2024. 5.18	彩の国環境大学修了生の会 第27回定期総会・講演会「オオカミのはなし」	さいたま市	角田裕志
8	2024. 5.18	秩父市環境市民会議 環境セミナー「私たちがとりまく化学物質」	秩父市	蓑毛康太郎
9	2024. 5.27	令和6年度災害時石綿モニタリングに関する訓練「R5年度測定の総括と今後の展望」「モニタリング訓練」	環境科学国際センター	佐坂公規 村田浩太郎
10	2024. 5.29	加須市環境政策課 防除対策研修会（1回目）「サクラの外來害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	加須市	三輪誠
11	2024. 5.29	加須市環境政策課 防除対策研修会（2回目）「サクラの外來害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	加須市	三輪誠
12	2024. 6.12	鴻巣市立川里中学校 1学年校外学習「よくわかる！埼玉の空気のむかしといま」	環境科学国際センター	佐坂公規

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
13	2024. 6.12	県立伊奈学園中学校 選択「科学」 「埼玉の水環境の現状と保全」	県立伊奈学園中学校	渡邊圭司
14	2024. 6.13	令和6年度VOC実務者研修 「埼玉県内で観測された大気中VOCの実態と光化学大 気汚染対策」「現場でのVOC測定の方法と実際」	環境科学国際センタ ー	市川有二郎 村田浩太郎
15	2024. 6.13	直実市民大学 共通学習 「埼玉の水環境の現状と保全」	熊谷市	木持謙
16	2024. 6.15	羽生市立川俣小学校 稲子集会所子ども学習会 「生き物から見た水環境～水生生物を用いた水質調査～」	羽生市立川俣小学校	木持謙
17	2024. 6.17	東松山市立市の川小学校 第4学年総合的な学習の時間 「海なし県から川でつながる 海洋プラスチック汚染を考 える」	東松山市立市の川小 学校	田中仁志
18	2024. 6.21	堀場雅夫賞審査委員講演会 「水に溶けている有機物、溶 存有機物の研究-とても地味だが面白い-」	京都市	今井章雄
19	2024. 6.23	杉戸町環境課 第20回杉戸アースデー 「地球温暖化（影響と対策）」	杉戸町	嶋田知英
20	2024. 6.26	東松山市きらめき市民大学 2年生 くらしと健康学部 「オオカミのはなし」	東松山市	角田裕志
21	2024. 6.30	日高市立図書館 一般向け文化講座「土壌について学ぼう ～土壌と私たちの生活とのつながり～」	日高市	石山高
22	2024. 7. 2	第3回環境化学物質合同大会 自由集会 「災害・事故時の環境リスク管理に関する情報基盤 D.Chem-Coreを触ってみよう」	広島市	高沢麻里
23	2024. 7. 2	第3回環境化学物質合同大会 自由集会 「学生・若手研究者向け！環境化学関連お仕事大公開！」	広島市	高沢麻里
24	2024. 7. 5	山西農業大学資源環境学院 研究交流会 「埼玉環境科学国際センターの試験研究と国際連携」	中国・山西農業大学	王効拳
25	2024. 7. 5	さいたま市環境局環境共生部環境対策課 イチから学ぶ石 綿（アスベスト）研修 「ルーペを用いて石綿含有建材を判別してみよう」	さいたま市	川嵯幹生
26	2024. 7. 9	春日部市立南桜井小学校 5年生の授業 「海なし県から川 でつながる 海洋プラスチック汚染を考える」	春日部市立南桜井小 学校	田中仁志
27	2024. 7.18	さいたま市環境対策課 さいたま市環境研修会 「SDGsとごみ問題」	さいたま市	鈴木和将
28	2024. 7.20	2024夏休み特別企画 「サイエンスショー -196℃の世界」	環境科学国際センタ ー	佐坂公規 秋山美智代
29	2024. 7.21	NPO法人環 運営委員会 「富士山頂で大気を調べる」	吉川市	米持真一
30	2024. 7.21	2024夏休み特別企画 「カードゲームで深める川の生き物で水のよごれ調べ」	環境科学国際センタ ー	田中仁志
31	2024. 7.22	(一社)彩の国子ども・若者支援ネットワーク本庄センタ ー アスポート学習支援「SDGsとごみ問題」	本庄市	鈴木和将
32	2024. 7.22	埼玉県消費生活支援センター 令和6年度教職員等消費者 教育セミナー 「海なし県から川でつながる 海洋マイク ロプラスチック汚染を考える」	さいたま市	田中仁志
33	2024. 7.23	朝日工業(株)埼玉事業所 環境セミナー 「シカが生物多様性を低下させる！？」	神川町	角田裕志
34	2024. 7.25	加須市立樋遣川コミュニティセンター 高齢者学級 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	加須市	角田裕志
35	2024. 7.25	加須市役所生涯学習課騎西文化・学習センター 市民学習 カレッジセミナー「あなたの出したごみはどこへ？～廃 棄物処理・処分における最終処分場の重要性～」	環境科学国際センタ ー	磯部友護

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
36	2024. 7.26	コミュニティハウス三俣 「私たちをとりまく化学物質」	加須市	大塚宜寿 養毛康太郎
37	2024. 7.27	(一社)彩の国子ども・若者支援ネットワーク本庄センター アスポート学習支援 「SDGsとごみ問題」	寄居町	鈴木和将
38	2024. 7.27	2024夏休み特別企画「自由研究なんでも相談室-研究員が キミの自由研究を全力でサポートします-」	環境科学国際センタ ー	見島伊織
39	2024. 7.29	令和6年度大気規制に係る測定方法等研修会 「VOC測定方法の概要」「石綿測定方法の概要」「ばい煙 測定方法の概要、留意点及び測定データの読み方」「ダ イオキシンの性質・分析の基礎と測定結果の見かた」	環境科学国際センタ ー	佐坂公規 松本利恵 養毛康太郎
40	2024. 7.29	災害時石綿試料採取訓練 「試料採取の概要」「実技訓練」	環境科学国際センタ ー	佐坂公規 村田浩太郎
41	2024. 7.30	夏休みの自由研究支援「広瀬川で楽しもう 川の生き物し らべとアクセサリーづくり」	仙台市	田中仁志 木持謙
42	2024. 7.31	2024夏休み特別企画 「体験！雲の上の実験室～富士山頂では何が起きる？」	環境科学国際センタ ー	米持真一 村田浩太郎
43	2024. 8. 2	埼玉県公立高等学校事務職員会東部支部事務研究会 令和 6年度事務職員会東部支部研究大会「サクラの外来害虫 "クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	環境科学国際センタ ー	三輪誠
44	2024. 8. 2	2024夏休み特別企画 「夢を見つける！リアル体験教室 「水質を分析する環境博士になりたい」」	環境科学国際センタ ー	見島伊織 宮崎実穂
45	2024. 8. 4	2024夏休み特別企画 「暑いサイタマから身を守る-科学 的な暑さの対策を一緒に学ぼう」	環境科学国際センタ ー	大和広明
46	2024. 8. 5	加須市環境教育主任研究協議会 「地球温暖化（影響と対策）」	加須市立大利根東小 学校	大和広明
47	2024. 8. 6	埼玉県消費生活支援センター 令和6年度教職員等消費者 教育セミナー 「地球温暖化（影響と対策）」	川口市	嶋田知英
48	2024. 8. 6	2024夏休み特別企画 「体験！大気汚染を目で見てみよう！」	環境科学国際センタ ー	長谷川就一
49	2024. 8. 7	宮代町 ゼロカーボン推進協議会～キックオフセミナー～ 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？ （気候変動適応について）」	宮代町	嶋田知英
50	2024. 8. 7	東洋大学生命科学部 東洋朝霞共創リーダーズ 「オオカミのはなし」	環境科学国際センタ ー	角田裕志
51	2024. 8. 9	久喜市教育委員会 久喜市市民大学1年生講座 「地球温暖化（影響と対策）」	久喜市	嶋田知英
52	2024. 8.17	2024夏休み特別企画 「昆虫標本を作ってみよう」	環境科学国際センタ ー	嶋田知英
53	2024. 8.17	富士見市立図書館ふじみ野分館 ぶんちゃんひろば 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック 汚染を考える」	富士見市	田中仁志
54	2024. 8.18	2024夏休み特別企画 「溶けない氷の結晶でスノードームを作ってみよう」	環境科学国際センタ ー	河野なつ美
55	2024. 8.18 -19	令和6年度夏休み企画 「川で楽しもう 生き物と水の汚れ の関係を知って、川を守り、親しむ」	東松山市	田中仁志 木持謙
56	2024. 8.20	NPO法人あさか市民大学 市民企画講座 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック 汚染を考える」	朝霞市	田中仁志
57	2024. 8.24	彩の国環境大学開講式公開講座 「丸い地球で彩の国の環境を考える」	環境科学国際センタ ー	植松光夫

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
58	2024. 8.24	和光オーガニックの会 埼玉の水の環境を学ぶ 環境を守るためにせっけんをしよう 「生き物から見た水環境～水生生物を用いた水質調査～」	和光市	田中仁志
59	2024. 8.26	(株)サンアメニティ 職員研修 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	北本市	米倉哲志
60	2024. 8.31	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉の大気環境を知る」	環境科学国際センター	佐坂公規
61	2024. 9. 3	環境問題の現状と将来を展望するセミナー 「埼玉県気候変動適応センターの取組」	さいたま市	嶋田知英
62	2024. 9. 4	入間市立豊岡小学校 総合的な学習の時間 守れ！地域 「SDGsとごみ問題」	入間市立豊岡小学校	鈴木和将
63	2024. 9. 5	入間市立豊岡小学校 総合的な学習の時間 守れ！地域 「よくわかる！埼玉の空気のむかしといま」	入間市立豊岡小学校	佐坂公規
64	2024. 9. 5	埼玉県みどり自然課 みどりの活動リーダー養成講習 「生物多様性」	さいたま市	米倉哲志
65	2024. 9. 7	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県における気候変動の実態と2つの対策」	環境科学国際センター	嶋田知英
66	2024. 9. 7	彩の国環境大学基礎課程 「災害時の地下水利用からみた地下水管理・利用施策の諸課題-令和6年能登半島地震時の石川県七尾市から学ぶ-」	環境科学国際センター	柿本貴志
67	2024. 9.11	東松山市きらめき市民大学 教養科目講座「埼玉県の地下水と湧水～身近な水源を知っていますか？～」	東松山市	石山高
68	2024. 9.12	加須市不動岡コミュニティセンター いきいきスクール・不動岡 「オオカミのはなし」	加須市	角田裕志
69	2024. 9.14	彩の国環境大学基礎課程 「私たちのくらしと廃棄物～ごみ処理の変遷と制度～」	環境科学国際センター	長谷隆仁
70	2024. 9.14	彩の国環境大学基礎課程 「化学物質と私たちのくらし～健康で環境にやさしい生活をおくるために～」	環境科学国際センター	蓑毛康太郎
71	2024. 9.17	埼玉上尾メディックス 「スポーツチームと連携した脱炭素アクション推進事業勉強会」	上尾市	嶋田知英
72	2024. 9.21	SAITAMA環境フェア&こどもエコフェスティバル 「サイエンスショー -196℃の世界」	上尾市	佐坂公規 秋山美智代
73	2024. 9.21	彩の国環境大学基礎課程 「生物多様性を考える、埼玉県の現状」	環境科学国際センター	角田裕志
74	2024. 9.21	彩の国環境大学基礎課程 「川の国埼玉と里側の再生～地域の川と生きものたちを未来につなぐ～」	環境科学国際センター	木持謙
75	2024. 9.25	県立伊奈学園中学校 選択「科学」 「埼玉県の地下水と湧水～身近な水源を知っていますか？～」	県立伊奈学園中学校	石山高
76	2024. 9.27	川越市南公民館 南公民館登録グループ連絡会研修 「オオカミのはなし」	川越市	角田裕志
77	2024.10. 3	さいたま市立美園公民館 しらさぎ大学（後期） 「オオカミのはなし」	さいたま市	角田裕志
78	2024.10. 5	日本技術士会埼玉県支部西部地域小委員会CPD見学会 「私たちの暮らしと地質地盤環境」	環境科学国際センター	八戸昭一
79	2024.10. 5	日本技術士会埼玉県支部西部地域小委員会CPD見学会 「地中熱利用技術と実績」	環境科学国際センター	濱元栄起
80	2024.10. 9	本庄市 令和6年度第1回本庄市環境審議会 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	本庄市	米倉哲志
81	2024.10.16	鉢形地区環境問題協議会 視察研修 「廃棄物処理・処分における最終処分場の重要性」	環境科学国際センター	長谷隆仁

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
82	2024.10.17	(株)権田商会 社員研修 「ルーペを用いて石綿含有建材を判別してみよう」	皆野町	川嵯幹生
83	2024.10.18	中国上海応用技術大学特別講演 「植物修復技術を用いた汚染土壌の有効利用と資源再生について」	オンライン開催	王効拳
84	2024.10.21	加須市社会福祉協議会礼羽支部 ひとり暮らし高齢者ふれあい事業 礼羽地区ふれあい広場 「富士山頂で大気を調べる」	加須市	米持真一
85	2024.10.22	川越環境保全連絡協議会2024年度県内視察研修会&小江戸塾 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？（気候変動適応について）」	環境科学国際センター	河野なつ美
86	2024.10.23	東松山市きらめき市民大学 教養科目講座 「知っておきたいPM2.5の話-意外な実態と原因を解説します-」	東松山市	長谷川就一
87	2024.10.24	東京女子大学同窓会埼玉支部 埼玉探訪 「地球温暖化（影響と対策）」	環境科学国際センター	河野なつ美
88	2024.10.24	東京女子大学同窓会埼玉支部 埼玉探訪 「廃棄物処理・処分における最終処分場の重要性」	環境科学国際センター	長森正尚
89	2024.10.31	秩父市生活衛生課 秩父市環境衛生推進員秩父支部の研修 「SDGsとごみ問題」	秩父市	鈴木和将
90	2024.10.31	久喜市立太東中学校 総合的な学習の時間 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	久喜市立太東中学校	田中仁志
91	2024.11. 1 -12. 1	令和6年度公害防止主任者資格認定講習（大気関係） 「測定技術」「燃焼・ばい煙防止技術」	講義動画配信	長谷川就一 松本利恵
92	2024.11. 1 -12. 1	令和6年度公害防止主任者資格認定講習（ダイオキシン類関係） 「測定技術」	講義動画配信	竹峰秀祐
93	2024.11. 1 -12. 1	令和6年度公害防止主任者資格認定講習（水質関係） 「污水等処理技術一般」「測定技術」	講義動画配信	田中仁志 渡邊圭司
94	2024.11. 1 -12. 1	令和6年度公害防止主任者資格認定講習（騒音・振動関係） 「振動の防止技術」	講義動画配信	濱元栄起
95	2024.11. 4	(福)三郷市社会福祉協議会希望の郷交流センター利用者向けの環境イベント 「地球温暖化（影響と対策）」	三郷市	嶋田知英
96	2024.11. 7	コープデリ生活協同組合連合会 バイヤーズガイド学習会 「PFASについて」	オンライン開催	茂木守
97	2024.11.10	チームアライグマ 高校生によるシンポジウム 「生物多様性とその保全」	県立川越女子高等学校	三輪誠
98	2024.11.10	鴻巣市日中友好協会 中国環境問題講演会 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	鴻巣市	王効拳
99	2024.11.12	県立大宮工業高校 環境問題に向けた特別授業 「地球環境問題について」	さいたま市	大和広明
100	2024.11.12	パルシステム埼玉やさしいでんきテーマグループ 地熱発電についての学習会 「地中熱エネルギーの利用」	さいたま市	濱元栄起
101	2024.11.13	県立伊奈学園中学校 選択「科学」 「ルーペを用いて石綿含有建材を判別してみよう」	県立伊奈学園中学校	川嵯幹生
102	2024.11.15	全国大気汚染防止連絡協議会第69回全国大会 「大気汚染物質が地球温暖化に与えるものは」	さいたま市	植松光夫
103	2024.11.15	加須市大桑コミュニティーセンター いきいきマイライフ 「地球温暖化（影響と対策）」	加須市	嶋田知英
104	2024.11.15	久喜市教育委員会 久喜市市民大学 1年生企画講座 「オオカミのはなし」	久喜市	角田裕志
105	2024.11.15	八潮市老人福祉センター寿楽荘 八潮市寿中学校 「SDGsとごみ問題」	八潮市	鈴木和将

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
106	2024.11.16	彩の国環境大学修了生の会 2024年度例会 「気候変動によって変化する地域環境を予測するには？ (気候変動適応について)」	さいたま市	河野なつ美
107	2024.11.20	令和6年度第4回土壌汚染関係専門研修 「地下水流向の推定について」 「検知管を用いた簡易VOC測定」 「ポータブル水質計を使用した地下水の基本水質測定」 「地下水採水、井戸深度、地下水位の測定」 「地下水の性状把握と採水地点の位置情報確認」 「地下水砒素汚染、汚染原因と自然由来の判断指標」 「ボーリング柱状図の利用の仕方」 「土壌汚染関連データのGISデータベース構築の進捗と課題」	環境科学国際センター	石山高 濱元栄起 柿本貴志 高沢麻里
108	2024.11.21	T.T彩たま 温暖化勉強会 「スポーツチームと連携した脱炭素アクション推進事業」	さいたま市	嶋田知英
109	2024.11.23	彩の国環境大学閉講式公開講座 「湖の水質をコントロールするもの-河川でなくてゴメンナサイ」	環境科学国際センター	今井章雄
110	2024.11.24	坂戸市環境学館いずみ 生活環境講座 「私たちをとりまく化学物質」	坂戸市	堀井勇一
111	2024.11.24	秩父市環境市民会議 環境セミナー 「海なし県から川でつながる 海洋マイクロプラスチック汚染を考える」	秩父市	田中仁志
112	2024.11.27	上尾市環境美化推進員連合会 研修会 「SDGsとごみ問題」	上尾市	鈴木和将
113	2024.12. 3	上尾商工会議所原市支部 講演会 「SDGsとごみ問題」	上尾市	鈴木和将
114	2024.12. 5	県立大宮工業高等学校 建築科3年「建築生産技術」授業 「地球温暖化（影響と対策）」	県立大宮工業高等学校	大和広明
115	2024.12.17	宮代町教育推進課 みやしろ大学 「私たちをとりまく化学物質」	宮代町	竹峰秀祐
116	2024.12.20	神奈川県温泉地学研究所 研修 「地質や汚染原因の違いから見た地下水汚染の特徴」	小田原市	石山高
117	2025. 1.14	戸田中央メディックス埼玉 「スポーツチームと連携した脱炭素アクション推進事業勉強会」	戸田市	嶋田知英
118	2025. 1.15	(公財)上尾市地域振興公社 公園施設に配属の職員研修 「生物多様性とその保全」	上尾市	米倉哲志
119	2025. 1.17	加須市教育委員会生涯学習部生涯学習課 市民学習カレッジ（生涯学習講座） 「サクラの外来害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	加須市	三輪誠
120	2025. 1.17	加須市くらしの会 第1回未来のための環境講座 「埼玉県における侵略的外来生物の現状」	加須市	米倉哲志
121	2025. 1.18	羽生市立郷土資料館 令和7年度ムジナモ講演会 「埼玉県における希少生物の現状」	羽生市	安野翔
122	2025. 1.20 -2. 7	環境省環境調査研修所 大気分析研修 「大気粉じん中の重金属の分析について」	講義動画配信	米持真一
123	2025. 1.20 -2. 7	環境省環境調査研修所 大気分析研修 「大気粉じん試料のサンプリング法」	講義動画配信	長谷川就一
124	2025. 1.22	(独)水資源機構総合技術センター 環境学習会「知ってきたいPM2.5の話-意外な実態と原因を解説します-」	さいたま市	長谷川就一
125	2025. 1.22	県立伊奈学園中学校 選択「科学」 「富士山頂で大気を調べる」	県立伊奈学園中学校	村田浩太郎
126	2025. 1.22	入間看護専門学校 成人老年看護概論 「私たちをとりまく化学物質」	入間看護専門学校	養毛康太郎

	期 日	名 称	開 催 場 所	氏 名
127	2025. 1.29	蕨市 南部環境事務研究会 共同研究会 「日常生活と水環境～私たちに何ができるか～」	蕨市	木持謙
128	2025. 1.31	埼玉県環境計量協議会・2024年度新春講演会 「水に溶けている有機物、溶存有機物-とても地味だが面白い-」	さいたま市	今井章雄
129	2025. 2. 4	JAいるま野北部農政対策委員会 会議「サクラの外來害虫 "クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	坂戸市	三輪誠
130	2025. 2. 5	埼玉県環境科学国際センター講演会 「オオカミを通して考える環境と社会」 「水生生物カードゲームで深める河川体験学習」	さいたま市	角田裕志 田中仁志
131	2025. 2. 5	EIKOデジタル・クリエイティブ高等学校 公開講座 「オオカミのはなし」	さいたま市	角田裕志
132	2025. 2. 7	越谷市教育委員会指導課 第2回環境教育研修会 「SDGsとごみ問題」	越谷市	鈴木和将
133	2025. 2.13	越生町新こうねん大学「愛好会」研修講座 「地球温暖化（影響と対策）」	越生町	河野なつ美
134	2025. 2.16	坂戸市環境学館いずみ 令和6年度いずみ自然塾 「シカが生物多様性を低下させる！？」	坂戸市	角田裕志
135	2025. 2.18	川越環境保全連絡協議会 2025新春講演会 「地中熱エネルギーの利用」	川越市	濱元栄起
136	2025. 2.18	川越環境保全連絡協議会 2025新春講演会 「災害時における井戸水の有効利用-令和6年能登半島地震時の石川県七尾市から学ぶ-」	川越市	柿本貴志
137	2025. 2.20	北本市環境課 環境研修会 「地球温暖化（影響と対策）」	北本市	大和広明
138	2025. 2.22	第1回KAZOフェス 「サイエンスショー」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
139	2025. 2.22	三郷市クリーンライフ課 河川浄化活動指導者講習会 「日常生活と水環境～私たちに何ができるか～」	三郷市	木持謙
140	2025. 3. 3	環境部大気環境課 大気環境研究会（第2回） 「ドローンを活用した上空の大気計測-常時監視局では見えない上空の実態解明のために-」	オンライン開催	米持真一
141	2025. 3. 5	熊谷市中央公民館 地球温暖化について学ぼう 「地球温暖化（影響と対策）」	熊谷市	大和広明
142	2025. 3.11	埼玉県害虫防除事業協同組合 2025年勉強会 「サクラの外來害虫"クビアカツヤカミキリ"の生態と防除」	さいたま市	三輪誠
143	2025. 3.16	NPO法人環 環境セミナー 「埼玉県における侵略的外來生物の現状」	吉川市	米倉哲志
144	2025. 3.23	東松山市環境基本計画市民推進委員会 令和6年度第2回市民環境会議 「生物多様性とその保全」	東松山市	三輪誠
145	2025. 3.28	埼玉大学理工学研究科科学者の芽育成支援室 埼玉大学 HiSEP-Miraiプログラム令和6年度学外研修 「埼玉県における希少生物の現状」	環境科学国際センター	安野翔

5.6 表彰等

5.6.1 表彰

一般社団法人日本海洋学会 名誉会員授与

植松光夫

表彰理由

日本海洋学会に対する長年にわたる顕著な功労に感謝しここに名誉会員に推薦する。

全国環境研協議会 会長表彰

茂木守

表彰理由

環境化学分野を主とした長年にわたる研究活動及び行政支援の功績が多数あり、環境保全の推進に対する多大な功労が高く評価された。

大気環境学会 AJAE論文賞

市川有二郎 野尻喜好 佐坂公規

表彰理由

Asian Journal of Atmospheric Environment 17巻に掲載された原著論文「Determination of BVOCs based on high time-resolved measurements in urban and forest areas in Japan」に対して授与された。本研究では、埼玉県内の都市域と森林域の地域特性の異なる地点で、植物起源揮発性有機化合物（BVOCs）の高時間分解測定を通年で実施し、BVOCsの地域別・時間帯別特徴を把握した。得られた成果は、大気中BVOCsの実態把握や化学輸送モデルの精度向上に寄与する研究として高く評価された。

全国環境研協議会関東甲信静支部 支部長表彰

長森正尚

表彰理由

資源循環・廃棄物分野を主とした長年にわたる研究活動及び行政・地域支援に関する功績と、地域環境保全の推進に対する多大な功労が高く評価された。

一般社団法人日本環境測定分析協会 設立 50 周年記念協会功労者表彰

川寄幹生

表彰理由

協会設立 50 周年を迎え、協会の事業推進について長年にわたり貢献した功労が評価された。

一般社団法人日本環境測定分析協会 設立50周年記念協会功労者表彰

堀井勇一

表彰理由

長年にわたる協会事業への貢献及び分析業界の発展に寄与した功績が高く評価された。

一般社団法人日本環境化学会 環境化学学術賞

堀井勇一

表彰理由

微量有機汚染物質の分析法開発や国内外フィールドにおける環境評価などに関する多数の優れた業績が認められた。

5.6.2 感謝状

第68回 生活と環境全国大会長 感謝状

酒井辰夫

表彰理由

埼玉県に入庁後、水環境課長、産業廃棄物指導課長、環境管理事務所長、環境科学国際センター長などを歴任し、環境分野における行政貢献及び研究業務の推進により、生活環境の改善や向上に多大な功績が認められた。